

北区埋蔵文化財調査年報

—平成29年度—

2019

東京都北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査年報

—平成 29 年度—

2019

東京都北区教育委員会

例　　言

1. 本書は、平成 29 年度に実施した、北区内における埋蔵文化財発掘調査等の結果を報告するものである。
2. 本書は、文化財保護法第 99 条に基づき北区教育委員会が調査主体者となり実施した、埋蔵文化財本発掘調査、試掘調査、確認調査の結果報告を主とする。
3. 本書の編集は、北区教育委員会（担当：牛山英昭）によるものである。
4. 各報告文の執筆・作成は、北区教育委員会の監修・指導のもと、発掘調査等の作業に従事した株式会社東京航業研究所の調査員（宅間清公・遠竹陽一郎）がこれにあたった。
5. 本書に掲載された発掘調査等の出土遺物や記録類については、北区教育委員会が保管している。
6. 本書に収録される調査および本書の作成にあたり、以下の諸機関よりご指導、ご協力を賜った。
株式会社オープンハウス・ディベロップメント
株式会社東京航業研究所
東京都教育庁地域教育支援部管理課

平成 29 年度 届出・通知件数 照会・立案実施等件数

届出・通知	法第 92 条：	5 件	照 会：	2964 件
	法第 93 条：	96 件	立会実施：	49 件
	法第 94 条：	3 件	慎重工事：	7 件
	法第 97 条：	1 件		

平成 29 年度 北区埋蔵文化財発掘調査一覧

民間事業（法第 92 条および法第 99 条による調査）

道路No.	通称名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (m ²)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
42	豊島馬場道路	王子 5-21-1	35° 46' 07"	試掘調査	216	29.12.1-29.12.26	集合住宅	なし	なし			
41	田端西台通道路	田端 5-11-8	35° 44' 21"	本塁掘調査	427	30.1.11-30.3.24	保育所	(平成 30 年度報告書刊行予定)				
27	西ヶ原通道路群	上中里 1-35	35° 44' 40"	本塁掘調査	22.6	30.1.25-30.2.5	分譲住宅	(報告書抄録を参照)			本書収録	

補助金事業（本書収録）

道路No.	通称名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (m ²)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
27	西ヶ原通道路	上中里 1-33	35° 44' 38"	試掘調査	7.0	29.4.5	個人住宅	なし	なし			
41	田端西台通道路	田端 6-3-20	35° 44' 19"	試掘調査	8.3	29.4.25	集合住宅	なし	なし			
17	梅ノ木道路	西5丁目 1-28-7	35° 46' 7"	試掘調査	9.8	29.5.1	個人住宅	なし	なし			
40	中里上通道路	中里 3-16-24	35° 44' 35"	縦坑調査	51.8	29.5.24-29.5.25	個人住宅	集落	平安時代	弥生土器 古墳時代の漆器 須恵器		
18	清水坂道路	中十条 4-6	35° 46' 3"	試掘調査	13.9	29.6.7	個人住宅	なし	なし			
40	中里坂上通道路	上中里 1-11-17	35° 44' 39"	試掘調査	14.2	29.6.9	集合住宅	なし	なし			

道路名	道路名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (m)	調査期間	種別	主な時代	主な遺物	備考
4	袋原地道路	赤羽北2-22	35° 47' 6" 139° 42' 36"	試掘調査	29.6	29.7-29.7.21	集合住宅		なし	なし
39	下十条道路	浅野川1-47-1	35° 45' 7" 139° 43' 26"	試掘調査	19.0	29.8.2	集合住宅		なし	なし
40	中里上道路	中里3-16-24	35° 44' 35" 139° 45' 8"	試掘調査	8.6	29.8.21	個人住宅		なし	なし
27	西ヶ原道路群 (西ヶ原1塚)	西ヶ原3-6-20	35° 44' 36" 139° 44' 33"	確認調査	8.0	29.10.2	個人住宅	貝塚	縄文時代 黎明	縄文土器
32	田端不動坂道路	田端1-24	35° 44' 8" 139° 45' 41"	試掘調査	7.4	29.10.11	分離住宅		なし	なし
19	十条台道路群 (南側道路)	中十条1-3-19	35° 45' 29" 139° 43' 51"	試掘調査	27.6	29.11.6	個人住宅		なし	なし
19	十条台道路群 (南側道路)	中十条1-3-19	35° 45' 29" 139° 43' 51"	確認調査	39.2	29.11.7-29.11.13	個人住宅	集落	古墳時代 前・中期	弥生土器 土偶器
40	中里上道路	中里3-16-24	35° 44' 36" 139° 45' 8"	試掘調査	6.3	29.12.11	個人住宅		(確認調査を実施)	
40	中里上道路	中里3-16-24	35° 44' 36" 139° 45' 8"	確認調査	9.8	29.12.12-29.12.13	個人住宅	集落	平安時代 豊かな居跡	土偶器 須恵器 弥生土器
27	西ヶ原道路群	上中里1-35	35° 44' 40" 139° 44' 52"	試掘調査	18.8	29.12.25	分離住宅		(法第99条による本格調査を実施)	
32	田端不動坂道路	田端1-24	35° 44' 8" 139° 45' 42"	試掘調査	2.3	30.1.11	個人住宅		なし	なし
19	十条台道路群	中十条1-26-9	35° 45' 43" 139° 43' 39"	試掘調査	9.0	30.1.24	分離住宅		なし	なし
27	西ヶ原道路群	西ヶ原3-7-15	35° 44' 33" 139° 44' 35"	試掘調査	7.0	30.1.29	個人住宅		なし	なし
43	宮城北道路	志茂3-8	35° 46' 37" 139° 44' 7"	試掘調査	5.0	30.2.6	個人住宅		なし	なし
40	中里上道路	中里3-11-13	35° 44' 23" 139° 45' 11"	試掘調査	43.7	30.2.14-30.2.15	集合住宅	(平成30年度 民間調査組織による本格調査を 実施)		

平成 29 年度区内遺跡本発掘調査
・試掘調査・確認調査概要報告

<はじめに>

平成 29 年度に実施された、国庫補助金対象事業である区内遺跡の埋蔵文化財本発掘調査および試掘調査、確認調査の概要を報告する。当該年度は、21 件の試掘調査・確認調査を実施した(第 26 図)。いずれも、「周知の埋蔵文化財包蔵地」に該当するものであり、文化財保護法(以下、法) 第 93 条第 1 項に基づく届出を経て、法第 99 条に基づき調査を実施したものである。

<試掘・確認調査>

1. 西ヶ原遺跡群(地点:上中里 1-33 第 1 図 図版 1・27-1)

[調査期間] 平成 29 年 4 月 5 日

[調査面積] 7.0 m²

[調査概要] 機材搬入後、対象地内に試掘坑(1.0 × 7.0m)を 1 箇所設定し、人力により表土掘削を行った。現地表下 0.5 ~ 0.6m 程でソフトロームの地山を検出した。その後、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、人力により埋め戻しを行い、機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.5 ~ 0.6m まで盛土・攪乱・耕作土であった。その下の地山はソフトローム(立川ローム第Ⅲ層)である。

2. 田端西台通遺跡(地点:田端 6-3-20 第 2 図 図版 2・27-2)

[調査期間] 平成 29 年 4 月 25 日

[調査面積] 8.3 m²

[調査概要] 重機・機材搬入後、対象地内に東試掘坑(0.85 × 4.75m)、西試掘坑(0.90 × 4.75m)の 2 箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。現地表下 0.4 ~ 0.5m 程でソフトロームの地山を検出した。その後、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.4 ~ 0.5m まで盛土・攪乱・耕作土であった。その下の地山はソフトローム(立川ローム第Ⅲ層)である。

3. 梅ノ木遺跡(地点:西が丘 1-28-7 第 3 図 図版 3・27-3)

[調査期間] 平成 29 年 5 月 1 日

[調査面積] 9.8 m²

[調査概要] 重機・機材搬入後、対象地内の中央部分に試掘坑(1.0 × 9.8m)を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。現地形は調査対象地の西側が東側に比べ 1.0m 程低くなっていたが、その低い部分は攪乱されていた。東側の高い部分は、1.2m 程の深さでロームに達した。その後、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。現地表下約 1.2m まで盛土・攪乱・耕作土であった。その下の地山はソフトローム(立川ローム第Ⅲ層)である。

4. 中里峠上遺跡(地点:中里 3-16-24 第 4・5 図 図版 4・5・27-4)

[調査期間] 平成 29 年 5 月 24 日~平成 29 年 5 月 25 日

[調査面積] 51.8 m²

[調査概要] 【A 地点】重機・機材搬入後、重機により表土掘削を行った。表土下 0.7 ~ 0.8m で遺構を検出した。

検出された遺構は竪穴住居跡 2 軒である。遺構の図面作成後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を

搬出し調査を終了した。

現地表下 0.7 ~ 0.8mまで盛土・攪乱であった。その下の地山はローム層(立川ローム第Ⅲ・Ⅳ層)である。

【B地点】重機・機材搬入後、重機により表土掘削を行った。設計深度の地表下 0.85mまで掘り下げたが、大半は攪乱であった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下約 0.5mまで盛土・攪乱・耕作土であった。その下は攪乱とソフトロームの地山(立川ローム第Ⅲ層)である。

〔遺構・遺物〕

【SI01】

遺構(第4図 図版4)

平面形：隅丸方形。規模：主軸検出長 2.58m以上、主軸直交検出長 3.42m、確認面からの深さ 0.15m。主軸方位：N - 54° - W。覆土：暗褐色を基本とする自然堆積。壁際に三角堆積が認められる。床：平坦であるが一部に凹凸が認められる。北壁中央付近から 0.46×0.43 m 程の範囲で焼土が認められる。竈前面から南北壁沿いを除き硬化面が認められる。竈：西壁北側部分に築かれている。遺存状態は悪く、左袖の一部が残るのみである。大きさは 0.78×0.68 mで、煙道部が住居壁外へ延びるものと思われる。壁溝：幅 0.30m程度、床面からの深さ 0.14mの壁溝が確認された。所見：調査区南東端で検出され、全体の 2 / 3 程を調査したものと考えられる。

遺物(第5図 図版5)

出土状況：1 ~ 7 が覆土中から出土した。遺物：1は須恵器の壺、2は須恵器の甕、3は土師器の武藏型甕、4は須恵系土師質土器の高台付壺、5は須恵系土師質土器の壺、6は砥石、7は縄文土器の深鉢である。

時期 出土遺物から 9世紀後半の住居跡と思われる。

【SI02】

遺構(第4図 図版4)

平面形：-。規模：主軸検出長 1.22m、主軸直交検出長 0.63m、確認面からの深さ床面のみ検出。主軸方位：N - 77° - W。壁溝：確認されなかった。所見：昨年度調査の SI02 と同一と考えられるが、攪乱が激しく硬化した床の一部が確認できただけであった。ピット1：硬化面と攪乱の境から検出された。覆土から本住居跡に伴うピットと考えられる。円形で規模は 0.22×0.20 m である。床面からの深さは 0.18m である。

遺物 本遺構からの出土遺物はない。

時期 不明。

5. 清水坂遺跡(地点：中十条 4-6 第6図 図版6・27-5)

〔調査期間〕 平成 29年 6月 7日

〔調査面積〕 13.9 m²

〔調査概要〕 重機・機材の搬入後、試掘坑を 2箇所設定した。試掘坑1の規模は、 1.0×6.8 m、試掘坑2の規模は 1.0×7.1 m である。重機による掘削を開始し、現況地表面から約 0.5m 下で、ローム漸移層とみられる堆積を検出した。これを遺構確認面とし、精査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。試掘坑の記録を作成し、重機による埋戻しを行い、重機・機材を搬出し、調査を終了した。

設計深度の地表下 0.5mまで、盛土・攪乱・耕作土層である。その下は地山で、ローム漸移層に相当する層(Ⅱ d')と思われるが、ローム漸移層に比べ、締りが強く、色調が暗い。攪乱を利用したサブトレンチにより、Ⅱ d'の層厚は約 0.15m であり、その下は立川ロームⅢ層に相当すると思われる堆積(Ⅲ')が確認された。Ⅲ'層は、立川ロームⅢ層に比べ、締りが強い印象である。

6. 中里峠上遺跡（地点：上中里 1-11-17 第7図 図版7・27-6）

〔調査期間〕 平成 29年 6月 9日

〔調査面積〕 14.2 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、対象地内に試掘坑（1.0 × 14.2m）を1箇所設定した。試掘坑北側から重機による掘削に着手した。試掘坑北側では、攪乱が深く、現地表面から1.0m 強掘り下げても、地山は確認されなかった。ピンホールでの深度確認でも、さらに1.0m以上、攪乱されているようである。試掘坑北側（崖側）の攪乱が深い部分以外でも、攪乱が著しく、浅い所で、現地表面から0.4～0.5m下に部分的に地山が確認できる程度であった。遺構・遺物は確認されず、試掘坑の記録の後、重機により埋戻し、重機・機材を搬出し、調査を終了した。

浅い所で、現地表面から0.4m下で地山（立川ロームⅢ～Ⅳ層）を確認した。

7. 袋低地遺跡（地点：赤羽北 2-2 第8図 図版8・27-7）

〔調査期間〕 平成 29年 7月 20日～平成 29年 7月 21日

〔調査面積〕 29.6 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、対象地内に東試掘坑1（1.0 × 5.6m）、東試掘坑2（6.0 × 1.0m）、西試掘坑（1.0 × 18.0m）の3箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。東試掘坑1の南北隅の地表下1.8～1.9m程でロームの二次堆積と思われる黄褐色の粘質土が、西試掘坑中央やや南側の地表下1.4m程で砂質土の地山を検出した。その他の部分は攪乱され、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下2.0m以上まで盛土・攪乱であった。部分的に粘質土や砂質土の地山が認められた。地形的には南側から北側に向かい傾斜しているものと考えられる。

8. 下十条遺跡（地点：滝野川 4-27-1 第9図 図版9・27-8）

〔調査期間〕 平成 29年 8月 2日

〔調査面積〕 19.0 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、始めに対象地内中央部に南北方向の試掘坑1（1.0 × 13.0m）を設定し、重機により表土掘削を行った。埋め戻し後、さらに、地形を確認する目的で、試掘坑1の南端部に直交するように東西方向の試掘坑2（1.0 × 7.0m）を設定し調査を行った。

試掘坑1北側は地表下0.35m程、南側は0.65～0.90m程でハードロームの地山が検出された。それより上は攪乱されていたため、自然堆積を確認することはできなかった。ハードロームの地山は南東方向に向かい低くなっている。現地形に沿っている。

遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。現地表下0.35～0.90m以上まで盛土・攪乱であった。地山はハードローム（立川ローム第Ⅳ層相当）で地形的には南東方向に向かい傾斜しているものと考えられる。

9. 中里峠上遺跡（地点：中里 3-16-24 第10図 図版10・27-9）

〔調査期間〕 平成 29年 8月 21日

〔調査面積〕 8.6 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、対象地内中央部に南北方向の試掘坑（1.0 × 8.6m）を1箇所設定し、重機により表土掘削を行った。現地表下0.5～0.6m程でソフトロームの地山が検出された。それより上は攪乱されていたため、自然堆積を確認することはできなかった。

遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終

了した。現地表下 0.5 ~ 0.6m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。

10. 西ヶ原遺跡群（西ヶ原貝塚）（地点：西ヶ原 3-6-20 第 11・12 図 図版 11・12・28-10）

〔調査期間〕 平成 29 年 10 月 2 日

〔調査面積〕 8.0 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、始めに対象地内中央部に南北方向の試掘坑（1.00 × 4.95m）を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。埋め戻しの後、試掘坑 1 に直交するように東西方向の試掘坑 2（1.00 × 4.00m）を設定し、同様に重機により掘削を行った。

現地表下 1.3 ~ 1.4m 程でソフトロームの地山が検出された。この地山は覆う土は、上から攪乱層（0.30m）、暗褐色土（0.75 ~ 0.85m）、黒褐色土（0.10 ~ 0.25m）の堆積が認められた。ソフトロームの上層に漸移層を介さないことから、人為的に地形を改変した可能性も考えられる。

遺物は黒褐色土層中から縄文土器が出土した。多くは下層のソフトローム直上で出土している。出土遺物は縄文時代晚期の土器が主体であった。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。現地表下 0.3m まで攪乱、以下暗褐色土（0.75 ~ 0.85m）、黒褐色土（0.10 ~ 0.25m）であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。

〔遺物〕

遺物（第 12 図 図版 12）

出土状況：黒褐色土中より出土した。遺物：1 ~ 5 が口縁部破片である。1・2 は緩い波状口縁をもち沈線により曲線的なモチーフを描く。3 は平線で三叉文を描く。4 は口縁部は無文で、下端に棒状工具による刺突列が巡り、以下斜位の沈線を施す。5 は横ナデされる無文土器である。6 ~ 14 は口縁部から頸部にかけての破片である。6 は三叉文が描かれる。7 は沈線によりモチーフを描く。8 ~ 11 は頸部の区画文に沈線間に列点文を施すものを配する。9・10 は貼付文が見られる。列点文は 8 が右下がり、11 が左下がりで、9 が横長に 2 列施される。12 ~ 14 は頸部の区画文に 2 条の沈線を配するものである。12 は貼付文が見られ、13・14 は沈線以下に半弧状の沈線が描かれる。15・16 は地文が LR の胸部破片である。いずれも安行Ⅲ d 式土器である。

時期：縄文時代晚期中葉。

11. 田端不動坂遺跡（地点：田端 1-24 第 13 図 図版 13・28-11）

〔調査期間〕 平成 29 年 10 月 11 日

〔調査面積〕 7.4 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、対象地内の西側に南北方向の試掘坑 1（1.0 × 2.7m）、東側に T 字状の試掘坑 2（東西 1.0 × 3.2m、南北 1.0 × 2.5m）の 2 箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 は設計深度の地表下 0.9m まで掘削したが、攪乱されていて、地山を検出することができなかつた。試掘坑 2 は地表下 1.0m 程でソフトロームの地山が検出された。それより上は攪乱されていたため、自然堆積を確認することはできなかつた。

遺構は検出されなかつた。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。現地表下 0.9 ~ 1.0m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。

12. 十条台遺跡群（南橋遺跡）(地点：中十条 1-3-19 第 14・15 図 図版 14・28-12)

【調査期間】 平成 29 年 11 月 6 日

【調査面積】 27.6 m²

【調査概要】 重機・機材搬入後、対象地内の北側に東西方向の試掘坑 1 (1.0 × 13.6m) と南側に東西方向の試掘坑 2 (1.0 × 14.0m) の 2箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 の東側では地表下 0.9m 程で遺構の覆土と思われる堆積土が確認されたが、その西側は擾乱されていた。中央から西側は、地表下 0.4 ~ 0.7m 程でソフトローム層の地山が検出された。

試掘坑 2 も試掘坑 1 と同様に、東端では地表下 0.6m 程で遺構の覆土と思われる堆積土が確認できたが、その西側は大きく擾乱されていた。中央から西側では、地表下 0.3 ~ 0.7m 程でソフトローム層の地山が検出された。

遺構は対象敷地内の東端と中央部分で、南北に走行すると思われる溝跡が検出された。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、試掘調査を終了した。

東側では現地表下 0.5 ~ 0.7m まで擾乱であった。その下に 0.2 ~ 0.4m 程の近世の耕作土が堆積し、地山はロームであった。擾乱は西側に向かい薄くなる。近世の耕作土の下端は、やや西側から東側に向かい傾斜している。西側で検出されたソフトローム層は、東側では擾乱と遺構の覆土により確認することができなかった。

詳細は、本稿の「13. 十条台遺跡群（南橋遺跡）(地点：中十条 1-3-19)」を参照。

13. 十条台遺跡群（南橋遺跡）(地点：中十条 1-3-19 第 16・17 図 図版 14・15・28-13)

【調査期間】 平成 29 年 11 月 7 日～11 月 13 日

【調査面積】 27.6 m²

【調査概要】 試掘調査の結果から、試掘坑中央と東端で溝跡が 2 条確認されたが、西側では遺構を確認することはできなかった。そのため、試掘坑中央付近で確認された第 2 号溝跡以東を対象として確認調査を行った。

重機により表土掘削を行った。現地表下 0.3 ~ 0.9m で遺構を検出した。検出された遺構は溝跡 2 条である。遺構の図面作成後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.3 ~ 0.5m まで盛土・擾乱であった。その下に近世の耕作土と思われる黒褐色および暗褐色を呈する土層が 0.2 ~ 0.4m 程堆積し、その下の地山はローム層（立川ローム第 III・IV 層）であった。

【遺構・遺物】

【SD01】

遺構（第 16 図 図版 14）

検出位置：調査区東端に位置する。規模：検出長 4.25m、幅 1.82m 以上。確認した深さは 0.62m である。西側部分には深い擾乱が位置するため、西壁を明確にすることはできなかった。また、溝跡の中心部は調査区外に位置するものと思われる。走行方位：N - 8° - W。断面形：外側から浅い段状の掘り込みが 1 ~ 2 段認められ、その後、急角度に掘りこまれ溝底面に至ると思われる。覆土：近世以降の耕作土の下層と色調は近似するが、炭化粒子・ローム粒子の含み具合で分層した。自然堆積である。所見：第 3・11・24 地点で検出された古墳時代中期の区画溝（第 1 号溝址）と同一のものの可能性があるが、断定はできない。

遺物（第 17 図 図版 15）

出土状況：1 ~ 4 が覆土中より出土した。遺物：いずれも小破片である。1 は壺の口縁部で内外面ハケ調整後、ミガキを施す。2 ~ 4 は台付甕の胴部で、外面にハケ目を残す。いずれも古墳前期の所産と思われるが、小破片であるため、流れ込みの可能性が高い。

【SD02】

遺構（第16図 図版14）

検出位置：調査区西側に位置する。**規模：**検出長3.90m、最大幅0.60m、深さ0.30～0.36m。両端は調査区外へと続く。**走行方位：**N-26°-W。**断面形：**南側は平坦な底面から直線的に斜めに立ち上がり、北側ではやや丸みある底面から僅かに内湾気味に立ち上がる。底面の高さは一定で傾斜は見られない。**覆土：**自然堆積である。**所見：**覆土はSD01に近いことから、SD01と同様に古墳時代中期の区画溝に関連する溝跡の可能性が考えられる。

遺物 図示できる遺物は出土していない。

時期 不明。

【調査区出土遺物】（第17図 図版15）

出土状況：5～10は表土掘削中及び遺構確認中に出土した遺物である。**遺物：**5は壺の口縁部で、折り返し部下端に木口状工具によるキザミを施す。6は壺の胴部で、外面に細かな縦ミガキが見られ、赤彩される。7～10は台付壺である。7は台部、8・9が頸部、10が胴部でいずれもハケ目が見られる。いずれも古墳時代前期の所産である。

14. 中里峠上遺跡（地点：中里3-16-24 第18図 図版16・27-14）

【調査期間】 平成29年12月11日

【調査面積】 6.3 m²

【調査概要】 前回の北側隣地の確認調査の成果をもとに、対象地内北側に東西方向の試掘坑（1.0×5.3m）を1箇所設定し、人力により表土掘削を行った。

建築計画の設計深度である地表下0.85m程まで掘削した結果、試掘坑東側で住居跡の覆土と思われる土層を確認した。西側は擾乱が深く、一部硬化した部分が遺存していた。硬化面は住居床面の一部である可能性がある。試掘坑の記録後、東側で検出された遺構の全形を確認するため、引き続き確認調査に移行した。

現地表下0.8～0.9mまで擾乱であった。

詳細は、本稿の「15. 中里峠上遺跡（地点：中里3-16-24）」を参照。

15. 中里峠上遺跡（地点：中里3-16-24 第18・19図 図版16・17・27-15）

【調査期間】 平成29年12月12日～平成29年12月13日

【調査面積】 9.8 m²（確認）

【調査概要】 試掘調査の成果をもとに、遺構（SI01）の全形を確認するために、南側を拡張し調査を行った。

建築計画の設計深度である地表下0.85m程まで掘削した結果、細長い擾乱の南側でソフトロームの地山が確認された。このことから、竪穴住居跡と思われる遺構は擾乱より南側に至らないことが確認できた。これとは別に竪穴住居跡と同様の覆土をもつピットを確認した。

遺構の記録後、人力で埋め戻しを行い、機材を搬出し調査を終了した。

現地表下0.8～0.9mまで擾乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。

【遺構・遺物】

【SI01】

遺構（第18図 図版16）

平面形：-。**規模：**主軸検出長3.52m、主軸直交検出長1.32m。**主軸方位：**N-68°-W。**覆土：**黒褐色を基本とするが、西側がやや暗褐色を呈し色調の違いが見られた。**所見：**西側の擾乱との境では、焼土や粘土が広範囲に分布していた。また一部硬化した部分も見られた。詳細は不明であるが、これらのこ

とから、住居跡の重複あるいは、カマドの一部あるいはカマドの壊されたものと考えられる。

遺物 土師器・須恵器・弥生土器が出土した。

時期 平安時代。

【Pit01】

遺構 (第 18 図 図版 16)

平面形: 楕円形。**規模**: 主軸検出長 0.48m、主軸直交検出長 0.38m 以上。**主軸方位**: N - 87° - W。

覆土: S101 と同様で黒褐色を呈する。**所見**: 遺物は認められないが、S101 と覆土が近似することから同一時期の所産と思われる。

16. 西ヶ原遺跡群 (地点: 上中里 1-35 第 20 図 図版 18・28-16)

〔調査期間〕 平成 29 年 12 月 25 日

〔調査面積〕 18.8 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、対象地内の南側に東西方向の試掘坑 1 (1.0 × 8.5m)、北側に変形 T 字状の試掘坑 2 (東西 1.0 × 8.0m、南北 1.0 × 2.3m) の 2 箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 では地表下 0.6 ~ 0.7m 程でソフトロームの地山が検出された。試掘坑中央付近から東側にかけては、遺構の覆土と思われる土層が確認できた。試掘坑 2 も試掘坑 1 と同様で、地表下 0.6 ~ 0.7m 程でソフトロームの地山が検出された。試掘坑の南端で遺構の一部を確認することができた。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.6 ~ 0.7m まで攪乱であった。地山はソフトローム (立川ローム第Ⅲ層相当) である。

17. 田端不動坂遺跡 (地点: 田端 1-24 第 21 図 図版 19・28-17)

〔調査期間〕 平成 30 年 1 月 11 日

〔調査面積〕 2.3 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、始めに対象地内の南西側に南北方向の試掘坑 (1.0 × 2.5m) を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。

設計深度の地表下 0.7m まで掘削した。部分的に地山のソフトロームが検出されたが、多くが攪乱されていた。

遺構は検出できなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.7m まで攪乱であった。地山はソフトローム (立川ローム第Ⅲ層相当) である。

18. 十条台遺跡群 (地点: 中十条 1-26-9 第 22 図 図版 20・28-18)

〔調査期間〕 平成 30 年 1 月 24 日

〔調査面積〕 9.0 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、始めに対象地内の東側に南北方向の試掘坑 (1.0 × 9.0m) を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。

地表下 0.9m まで掘削し、ソフトロームの地山を検出した。地山は多くの部分で攪乱を受けていた。地山より上位は全体的には攪乱され、自然堆積を確認することはできなかった。

遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.9m まで攪乱であった。地山はハードローム (立川ローム第Ⅳ層相当) である。

19. 西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 3-7-15 第 23 図 図版 21・28-19）

〔調査期間〕 平成 30 年 1 月 29 日

〔調査面積〕 7.0 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、始めに対象地内の中央部に東西方向の試掘坑 1 (1.0 × 7.0m) を設定した。この試掘坑 1 の西端部から 1.0m あけ、試掘坑 2 (1.0 × 1.0m) の 2 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 の東端部では地表下 1.2m 程まで、西側では 0.6m 程まで掘削し、地山を検出した。地山より上位は全体的に攪乱され、自然堆積を確認することはできなかった。地山は、試掘坑 1 の中央やや西側から東端部にかけては立川ローム第 X 層に、西側は第 IX 層に相当するものと思われる。斜面に位置するため不明確であるが、上層のロームの流出あるいは、大規模な地形の改変がなされたものと思われる。試掘坑 2 も同様で 0.9m 程で黒色帯（第 IX 層相当）が検出されたが、それより上位は攪乱されていた。

遺構は検出できなかった。試掘坑の記録後、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.6 ~ 1.2m まで攪乱であった。地山はローム（立川ローム第 IX ・ X 層相当）である。

20. 宮塚北遺跡（地点：志茂 3-8 第 24 図 図版 22・28-20）

〔調査期間〕 平成 30 年 2 月 9 日

〔調査面積〕 5.0 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、始めに対象地内の東側に南北方向の試掘坑 (1.0 × 5.0m) を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。

地表下 0.4m まで掘削し、青灰色粘土の地山を検出した。低地であるため、南側をさらに地表下 0.7m 程掘削したが、遺構・遺物は確認できなかった。地山より上位は全体的に攪乱され、自然堆積を確認することはできなかった。

試掘坑の記録後、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.4m まで攪乱であった。地山は青灰色粘土である。

21. 中里峠上遺跡（地点：中里 3-11-13 第 25 図 図版 23・24・28-21）

〔調査期間〕 平成 30 年 2 月 14 日～2 月 15 日

〔調査面積〕 43.7 m²

〔調査概要〕 重機・機材搬入後、始めに対象地内の北側に東西方向の試掘坑 1 (1.0 × 14.0m) を設定し、重機により表土掘削を行った。東側部分の一部を除き、地表下 2.0m 以上が攪乱されていた。次に、対象地内の南側に東西方向の試掘坑 2 (1.0 × 13.0m) を設定し、重機により表土掘削を行った。多くは攪乱されていたが、試掘坑 1 に比べその深度は浅く、範囲も狭かった。部分的に地山のソフトロームが地表下 0.5 ~ 0.6m 程の深さで検出され、一部遺構の覆土と思われるものも検出された。

その後、試掘坑 1・2 の成果をもとに攪乱の範囲と遺構覆土の範囲を知るために、これらの試掘坑と直交するように試掘坑 3 (1.0 × 11.4m)・試掘坑 4 (1.0 × 6.0m) を設定し調査を行った。

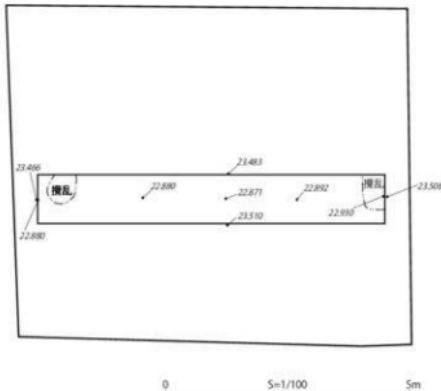
結果、対象地内の東側から南側にかけて、部分的に攪乱があるが、複数の遺構が認められた。

各試掘坑の記録写真・図面を作成し、埋め戻し後、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.5 ~ 0.6m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第 III 層相当）である。

遺物 古墳時代後期末から奈良時代にかけての須恵器・土師器・縄文土器（前期）が出土した。

時期 古墳時代後期末～奈良時代。



第1図 上中里 1-33 地点 調査平面図

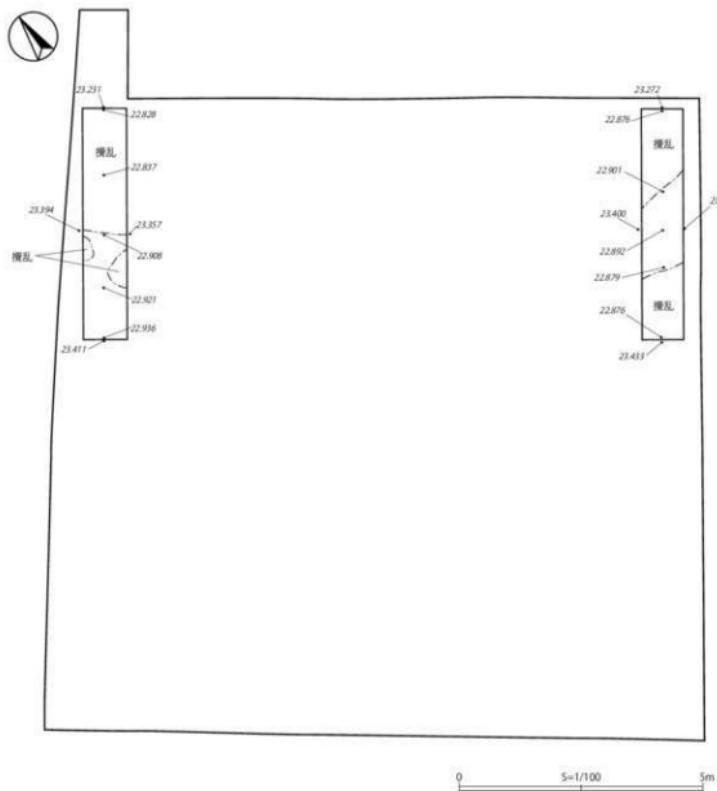


試掘坑全景（西側から）



土層堆積状況（北側から）

図版1 上中里 1-33 地点



第2図 田端 6-3-20 地点 調査平面図

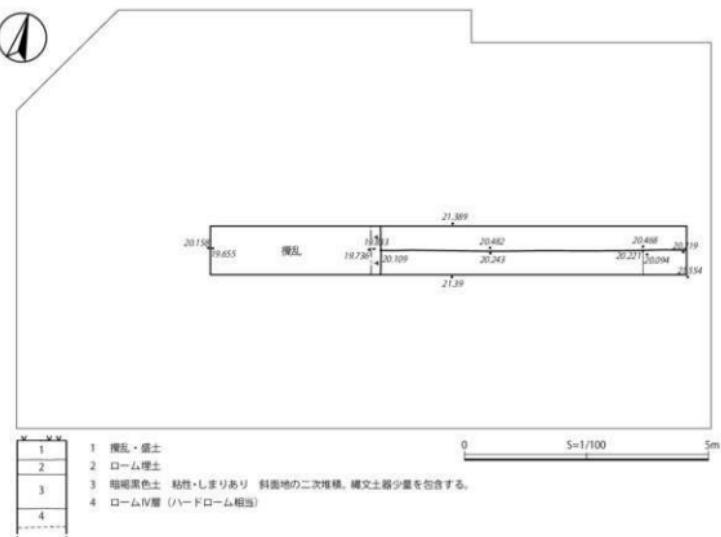


東試掘坑全景（北東側から）



西試掘坑全景（北東側から）

図版2 田端 6-3-20 地点



第3図 西が丘 1-28-7 地点 調査平面図



ローム検出面（南側から）

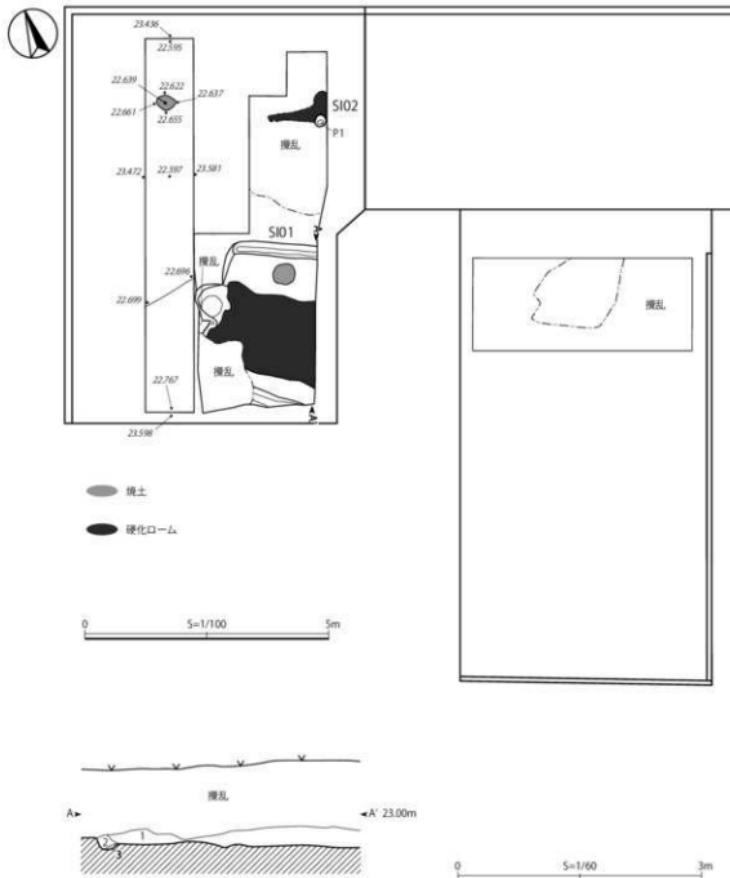


試掘坑全景（南側から）



試掘坑全景（北側から）

図版3 西が丘 1-28-7 地点



SI01
 土色 摺り 黏性 混入物・備考
 1 暗褐色土 なし なし ローム粒子を少量含む。
 2 暗褐色土 なし なし ロームブロック ($\varphi 5\text{mm}$) を少量含む。
 3 暗黄褐色土 なし なし ローム粒子を多量に含む。壁溝底土。

第4図 中里3-16-24地点 調査平面図



試掘坑全景（南側から）



SI01 全景（東側から）



SI01 カマド（東側から）



調査区1 ローム検出面（東側から）



SI02 全景（東側から）



SI02 ピット1（西側から）

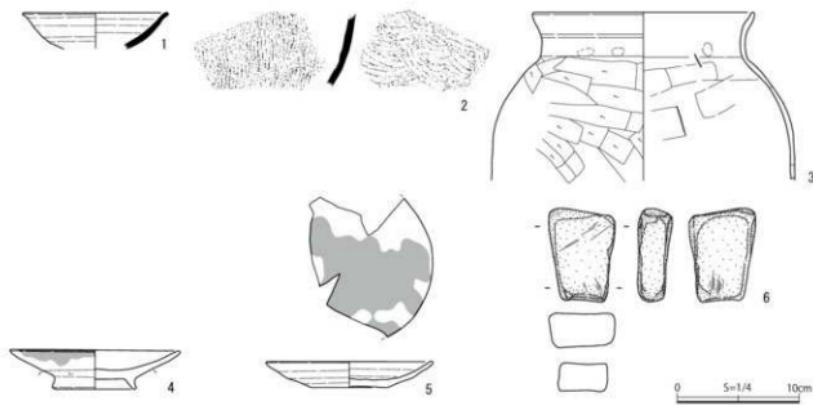


試掘坑全景（西側から）

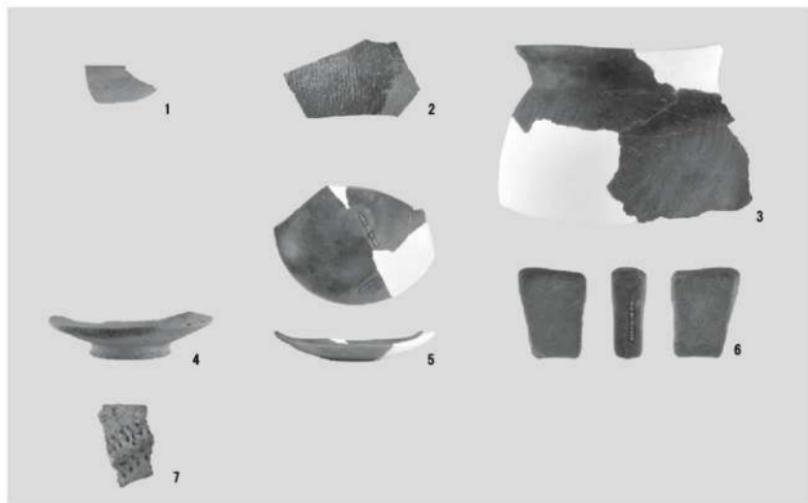


調査区2 ローム検出面（南側から）

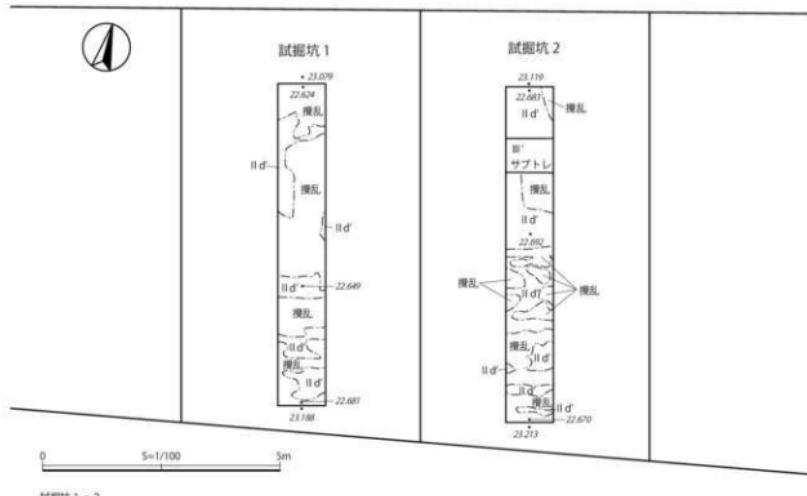
図版4 中里3-16-24地点



第5図 中里3-16-24地点 出土遺物実測図



図版5 中里3-16-24地点 出土遺物



第6図 中十条4-6地点 調査平面図

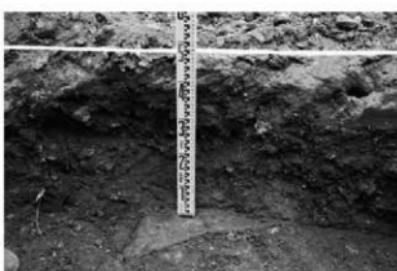
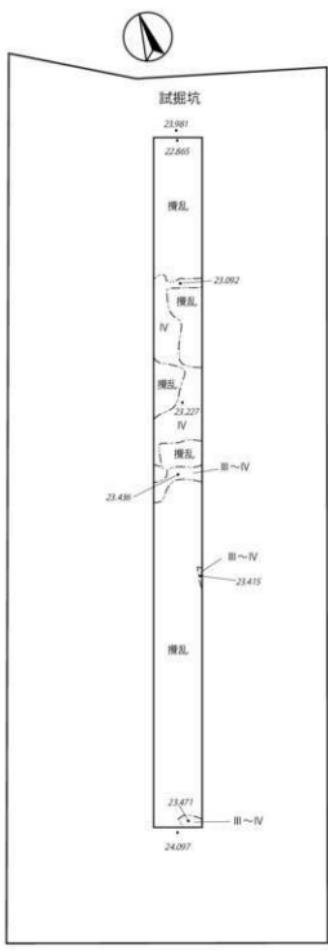


試掘坑1（南から）



試掘坑2（南から）

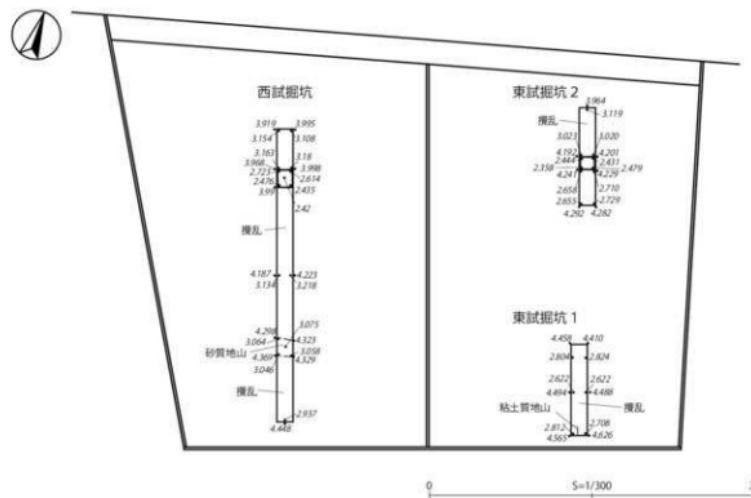
図版6 中十条4-6地点



図版7 上中里 1-11-17

0 5m S=1/100

第7図 上中里 1-11-17 地点 調査平面図



第8図 赤羽北 2-2 地点 調査平面図



西試掘坑全景（北側から）



西試掘坑土層堆積状況（北側から）

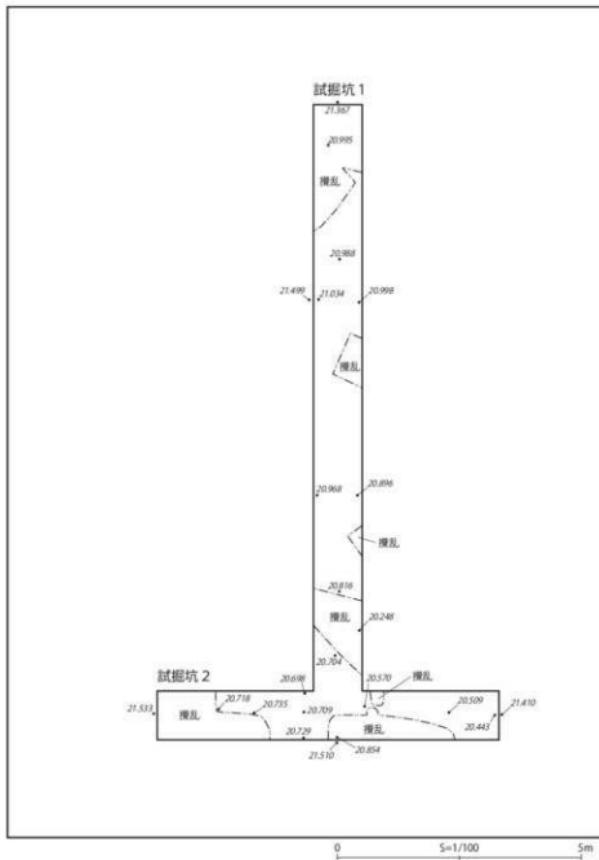


東試掘坑 1 全景（北側から）



東試掘坑 2 全景（南側から）

図版8 赤羽北 2-2 地点



第9図 滝野川4-27-1地点 調査平面図

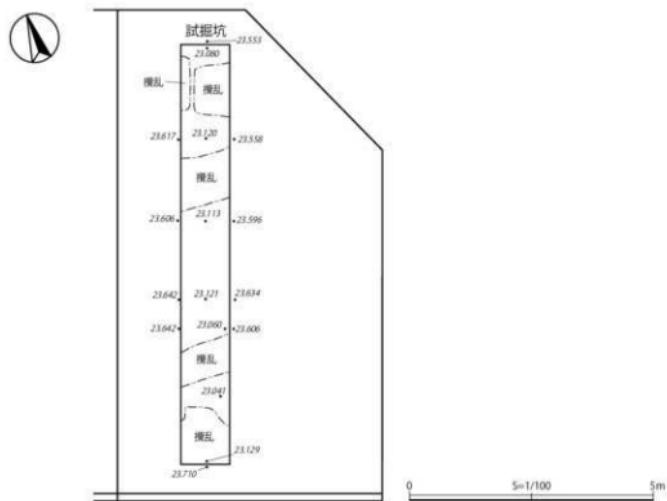


試掘坑1全景（北側から）



試掘坑2全景（西側から）

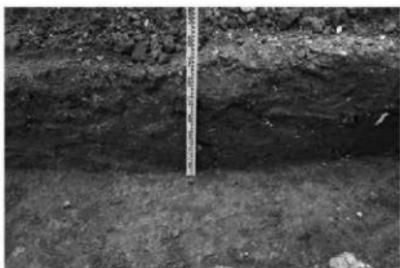
図版9 滝野川4-27-1地点



第10図 中里3-16-24地点 調査平面図



試掘坑全景（北側から）

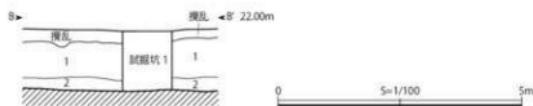
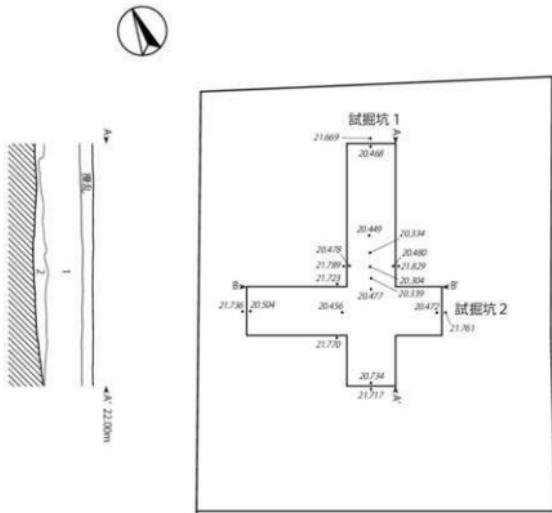


土層堆積状況（西側から）



調査終了後状況（北側から）

図版 10 中里 3-16-24 地点



試掘坑 1・2

土色 繊り 黏性 混入物・備考

- 1 暗褐色土 なし なし 燐土粒子、ローム粒子を少量含む。※非常にやわらかく均一性が高い遺物小破片を少量含む。
- 2 黒褐色土 なし なし 硅化粒子、燒土粒子を少量含む。ローム粒子を多量に含む。

第 11 図 西ヶ原 3-6-20 調査平面図

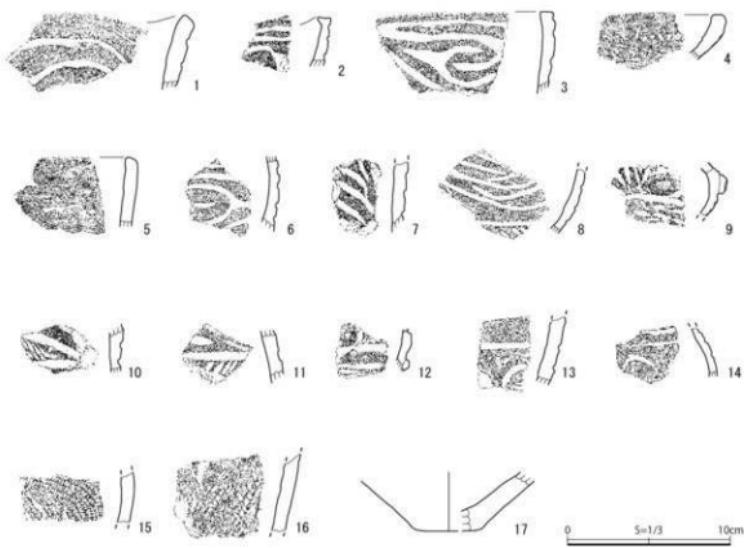


試掘坑 1 全景（北側から）

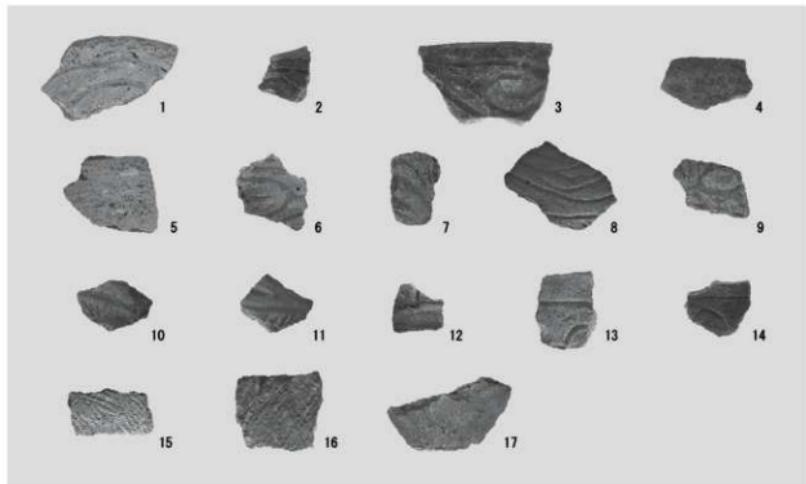


試掘坑 2 全景（西側から）

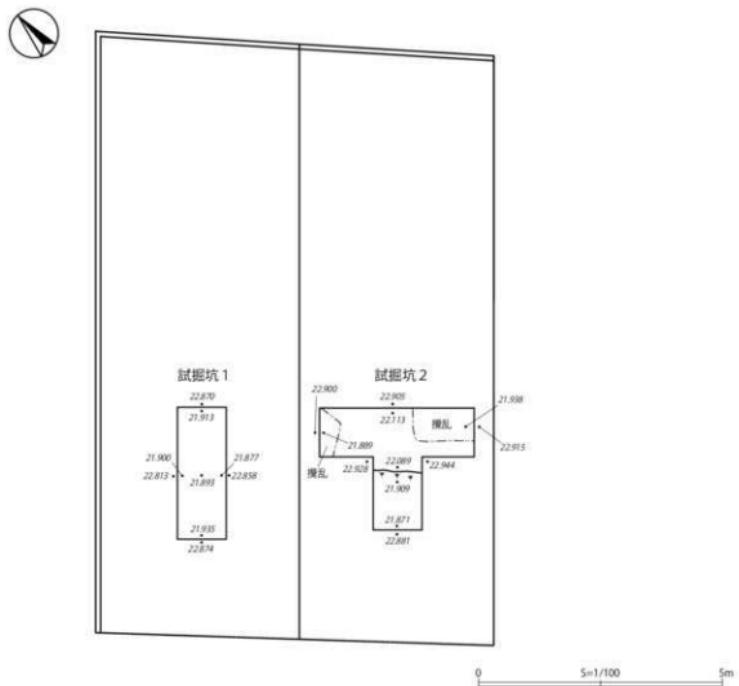
図版 11 西ヶ原 3-6-20 地点



第12図 西ヶ原3-6-20地点 出土遺物実測図



図版12 西ヶ原3-6-20地点 出土遺物



第13図 田端1-24 調査平面図

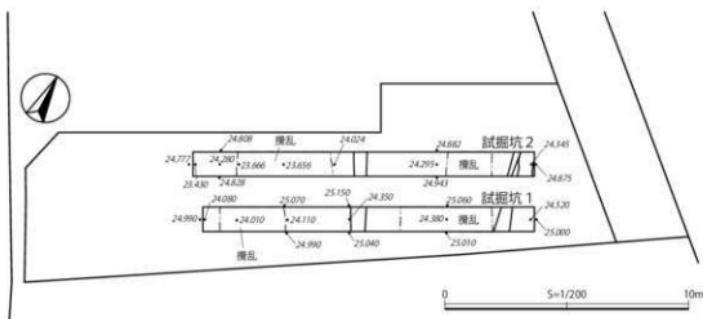


試掘坑1全景（北東側から）

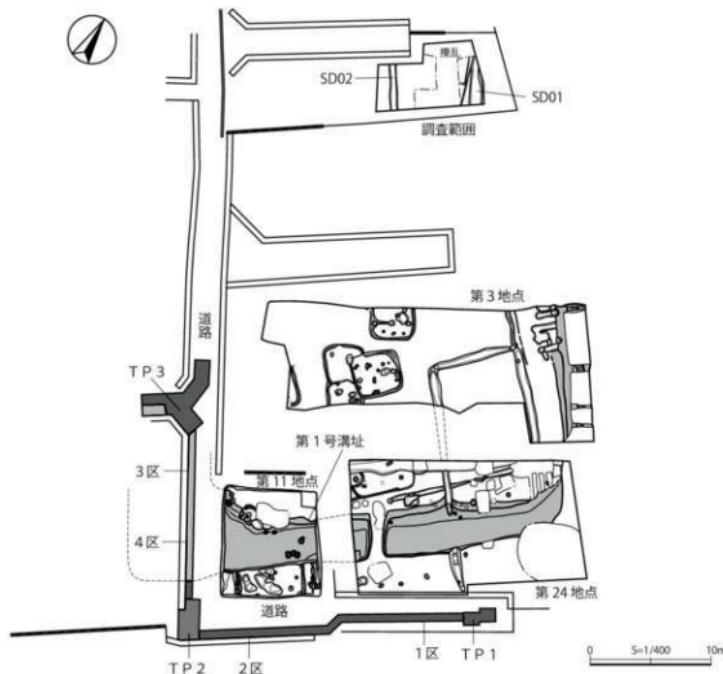


試掘坑2全景（東側から）

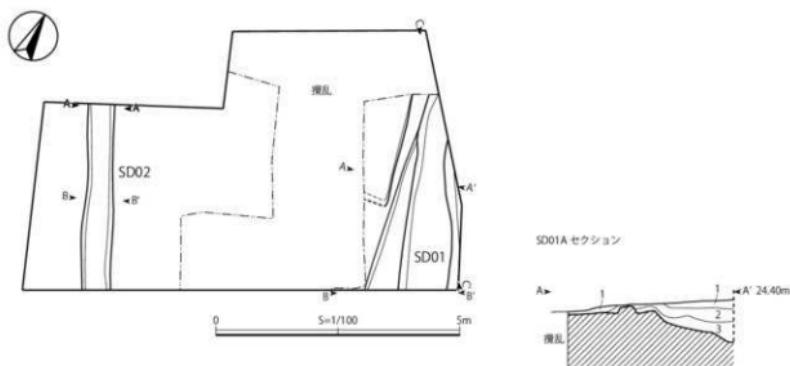
図版13 田端1-24地点



第14図 中十条1-3-19地点 調査平面図

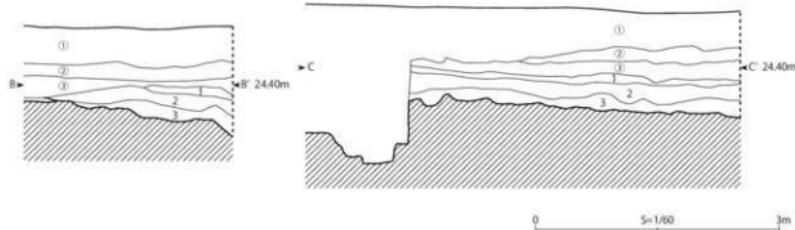


第15図 南橋遺跡区画溝



SD018 (調音区両壁) セクション

SD91C (調査区実験) セクション

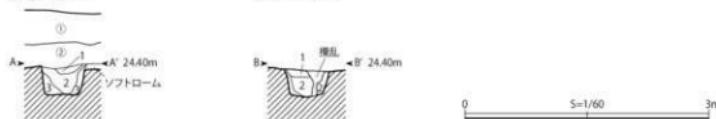


SDO 1

土色	繊り	粘性	混入物・備考
① 深紅色土			
② 黒褐色土 (10YR2/3)	ややあり	ややあり	ローム粒子を微量含む。
③ 細緻土土 (10YR3/4)	ややあり	ややあり	ローム粒子を少量含む。
④ 皺縮土 (10YR3/3)	なし	なし	炭化粒子・ローム粒子を少量含む。
⑤ 球状土 (10YR9/3)	なし	なし	炭化粒子・ローム粒子を少量、ロームブロック ($\phi 5\text{ mm}$ 以下) を含む。
⑥ 細緻土土 (10YR3/3)	ややあり	なし	ロームブロック ($\phi 5\text{ - }30\text{ mm}$) を多く含む。

SD02A セクション

SD02B セクション



5003

土色	縹り	粘性	混入物・備考
② 深紅褐色			
黒褐色土 (10YR2/3)	ややあり	ややあり	ローム粒子を微量含む。
1 黒褐色土 (10YR2/3)	ややあり	ややあり	ローム粒子を少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4)	なし	ややあり	ローム粒子、黒褐色土子を少量含む。
3 褐色土 (10YR4/4)	ややあり	ややあり	ローム粒子・ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を少量含む。

第16図 中十条1-3-19地点 調査平・断面図



試掘坑 1 全景（西側から）



試掘坑 2 全景（西側から）



調査区全景（西側から）



SD01 全景（南側から）



SD01 調査区東壁・1（西側から）



SD01 調査区東壁・2（西側から）

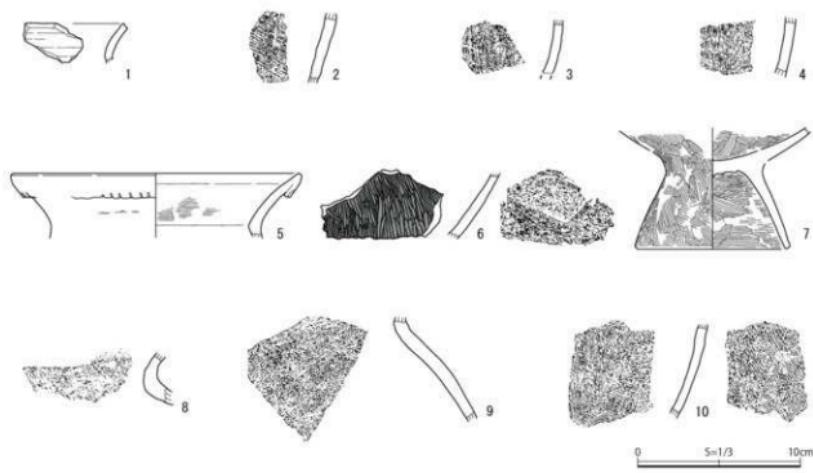


SD02 全景（北側から）

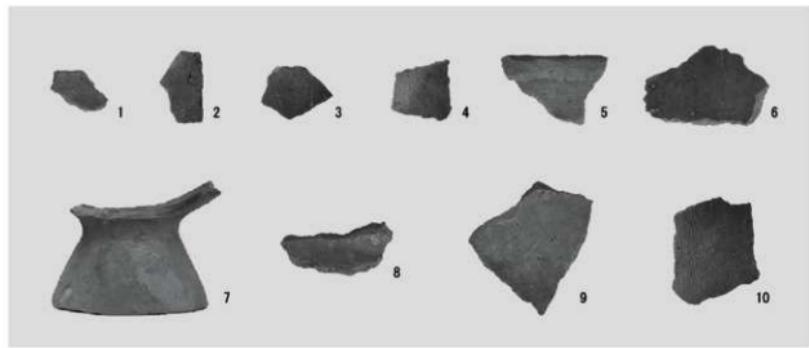


SD02B-B''（南側から）

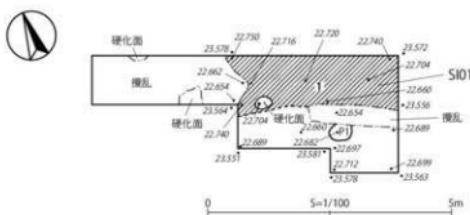
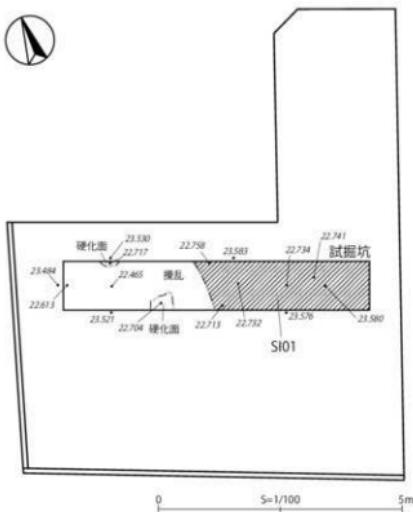
図版 14 中十条 1-3-19 地点



第17図 中十条1-3-19地点 出土遺物実測図



図版15 中十条1-3-19地点 出土遺物



SI01
 土色 植り 粘性 混入物・個考
 1 黒褐色土 (7.5YR2/2) ややあり ややあり ローム粒子・ロームブロック ($\phi 0.5\text{mm}$ 前後) を多量に含む。炭化粒子を少量含む。

第 18 図 中里 3-16-24 地点 調査平面図

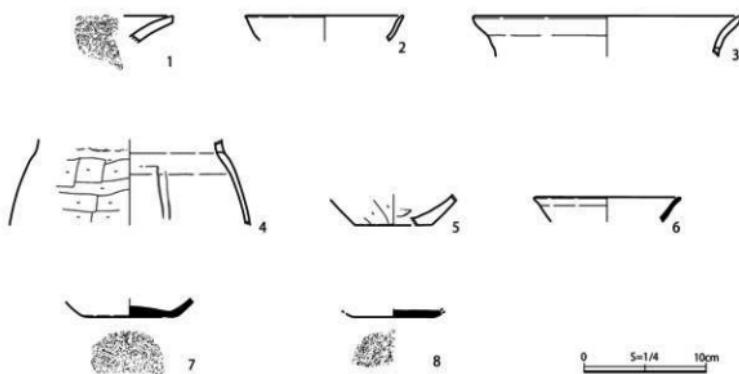


試掘坑全景（東側から）

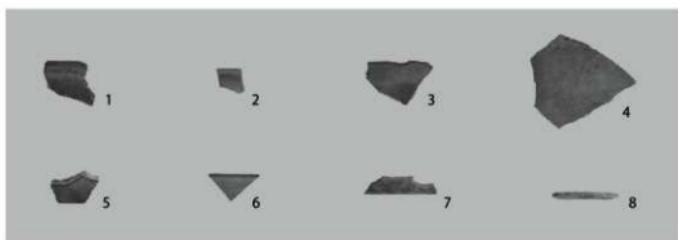


調査区全景（東側から）

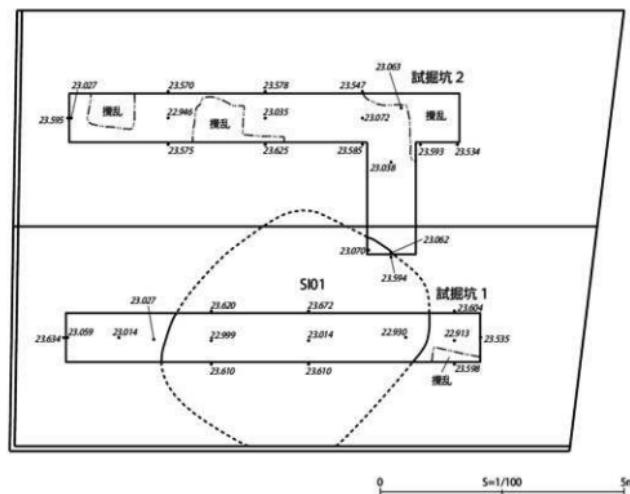
図版 16 中里 3-16-24 地点



第19図 中里3-16-24地点 出土遺物実測図



図版17 中里3-16-24地点 出土遺物



第20図 上中里1-35地点 調査平面図

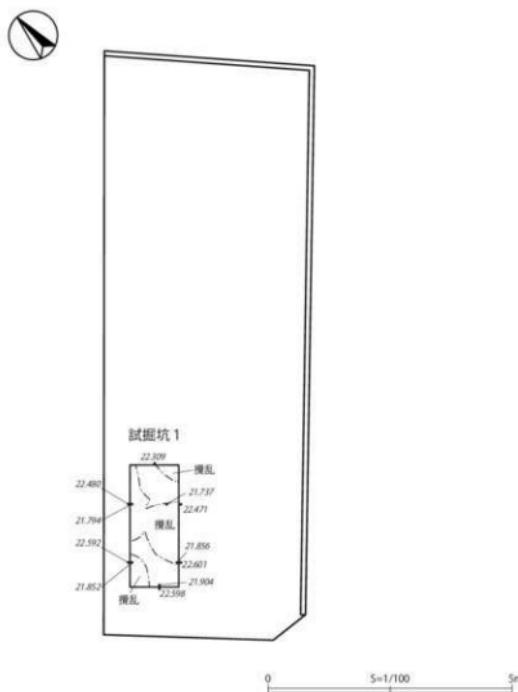


試掘坑1全景（東側から）

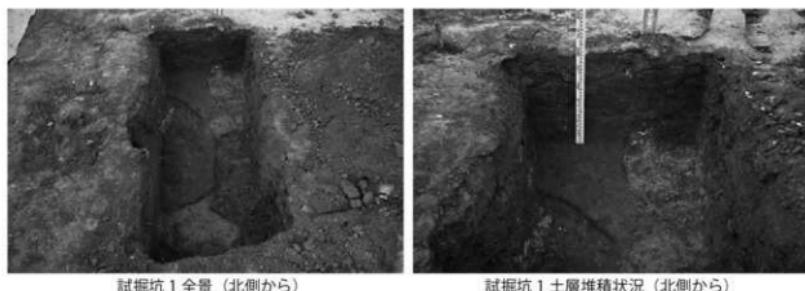


試掘坑2全景（東側から）

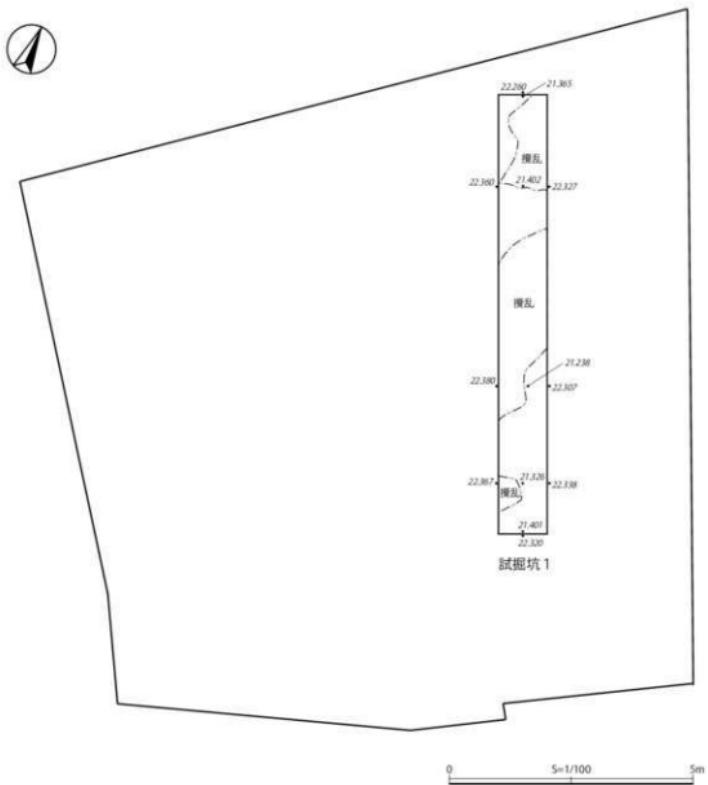
図版18 上中里1-35地点



第 21 図 田端 1-24 地点 調査平面図



図版 19 田端 1-24 地点



第 22 図 中十条 1-26-9 地点 調査平面図

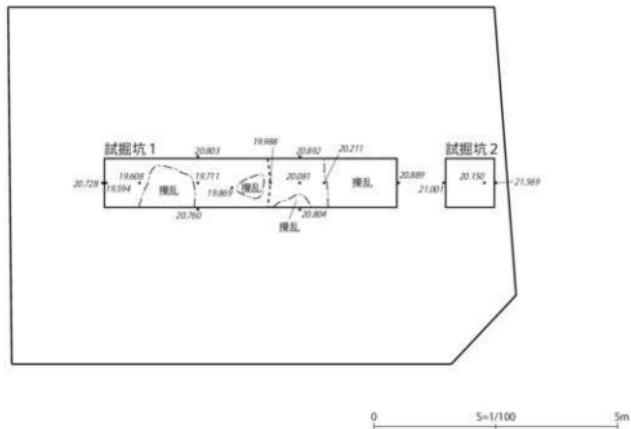


試掘坑全景（東側から）



調査区全景（東側から）

図版 20 中十条 1-26-9 地点



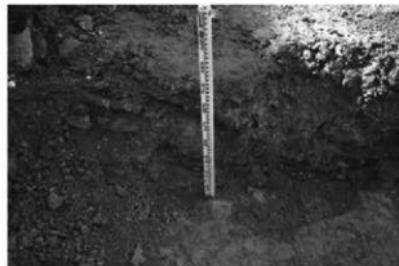
第23図 西ヶ原3-7-15地点 調査平面図



調査地点全景（南東側から）



試掘坑1・2全景（南東側から）

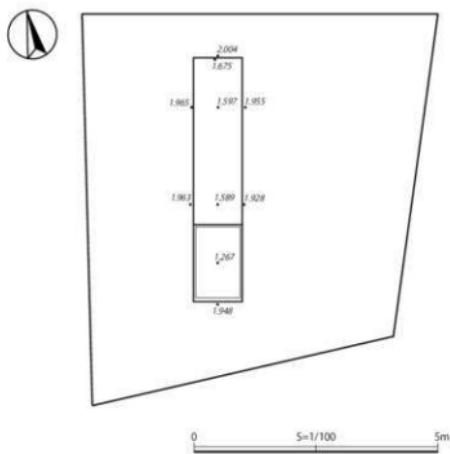


試掘坑1土層堆積状況（南側から）



試掘坑2土層堆積状況（南西側から）

図版21 西ヶ原3-7-15地点



第 24 図 志茂 3-8 地点 調査平面図



調査地点全景（南側から）

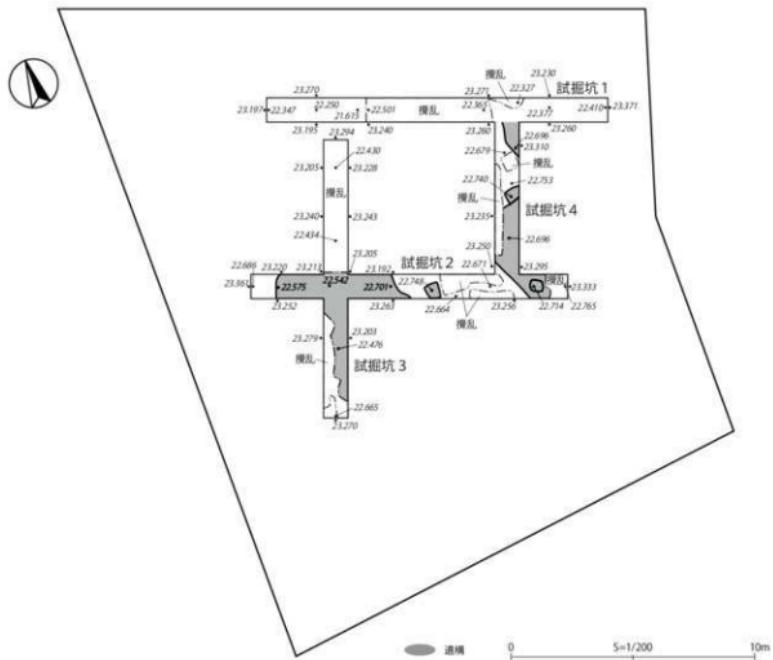


試掘坑 1 土層堆積状況（西側から）



試掘坑 1 全景（南側から）

図版 22 志茂 3-8 地点



第25図 中里3-11-13地点 調査平面図



調査地点全景（西側から）



試掘坑1全景（西側から）

図版23 中里3-11-13地点(1)



試掘坑 1 東端堆積状況（北側から）



試掘坑 1 攪乱状況（西側から）



試掘坑 2 全景（東側から）



試掘坑 2 東端堆積状況（南側から）



試掘坑 2・4 交差地点遺構検出状況（南西側から）



試掘坑 3 全景（南側から）

図版 24 中里 3-11-13 地点（2）



第 26 図 国庫補助金対象事業調査地点位置図 (S=1/50,000)



1. 上中里 1-33



5. 中十条 4-6



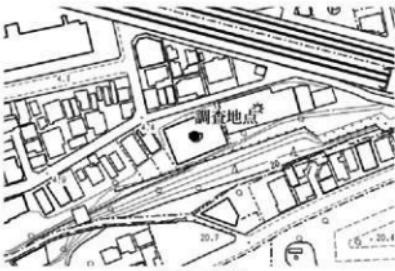
2. 田端 6-3-20



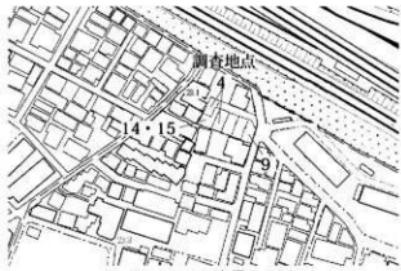
6. 上中里 1-11-7



3. 西が丘 1-28-7



7. 赤羽北 2-2



4・9・14・15. 上中里 3-16-24



8. 漣野川 4-27-1

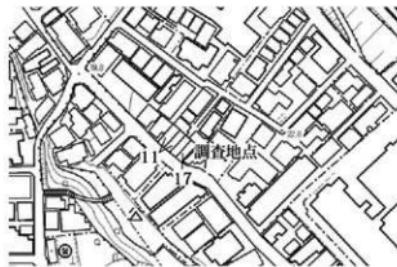
第 27 図 国庫補助金対象事業調査地点詳細図① (S=1/2,500)



10. 西ヶ原 3-6-20



18. 中十条 1-26-9



11・17. 田端 1-24



19. 西ヶ原 3-7-15



12・13. 中十条 1-3-19



20. 志茂 3-8



16. 上中里 1-35



21. 中里 3-11-13

第 28 図 国庫補助金対象事業調査地点詳細図② (S=1/2,500)

西ヶ原遺跡群
—上中里 1-35 地点—発掘調査報告

西ヶ原遺跡群

—上中里 1-35 地点—発掘調査報告

はじめに

本調査報告は平成 29（2017）年 1～2 月に東京都北区上中里 1-35において、北区教育委員会を調査主体者とし株式会社東京航業研究所の調査支援により実施した西ヶ原遺跡群の発掘調査の成果をまとめたものである。なお、調査費用については、事業主である（株）オープンハウス・ディベロップメントが負担した。

1. 調査に至る経緯

平成 29 年 9 月 22 日付で、（株）オープンハウス・ディベロップメントより、上中里 1-35 における住宅設計画に伴い、文化財保護法（以下、法）第 93 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これに対して東京都教育委員会教育長は、同年 10 月 2 日付「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」（29 教地管第 2125 号）により試掘調査の必要性があることを通知した。

同年 12 月 25 日に試掘調査を実施したところ、遺構の存在が確認されたため、平成 30 年 1 月 25 日から 2 月 5 日まで北区教育委員会を調査主体として法第 99 条に基づき本発掘調査を行った。

2. 遺跡の立地と環境（第 1 図 表 1）

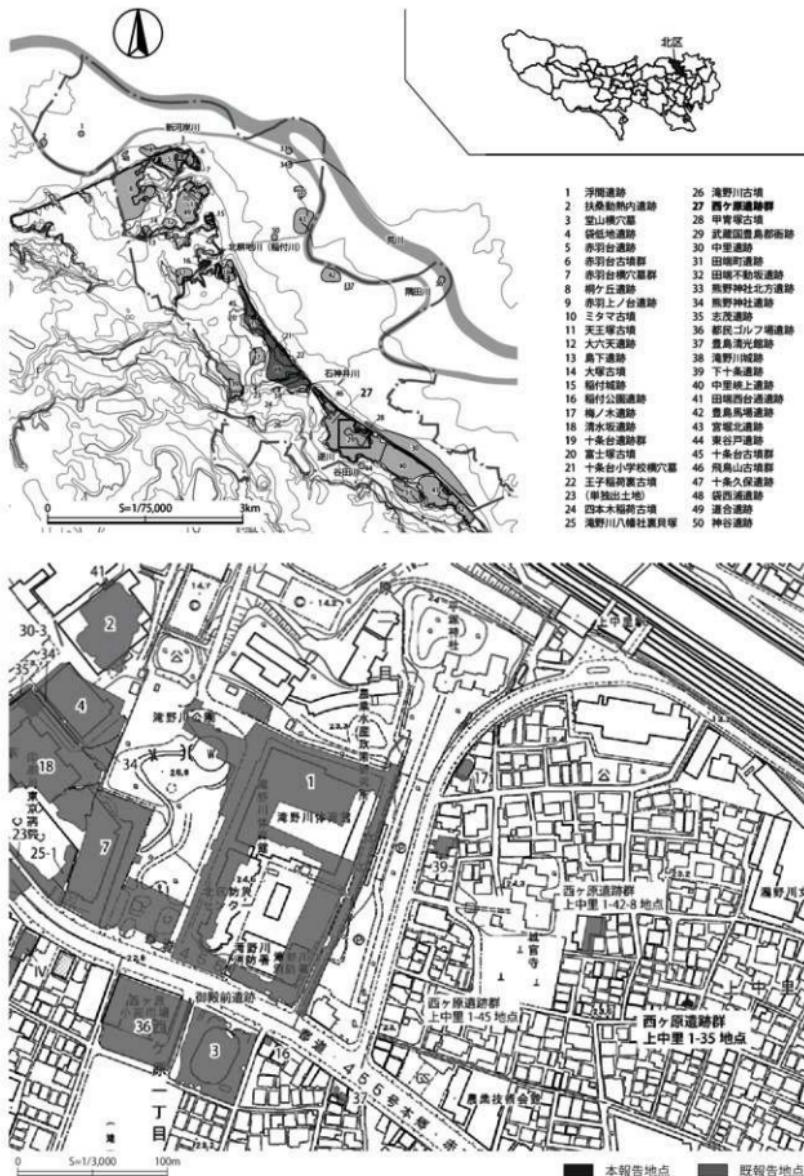
西ヶ原遺跡群がある北区は東京都の北東端に位置し、北側を埼玉県川口市、東側を足立区、荒川区、南側を豊島区、西側を板橋区と接している。北区の地形を大きく見てみると、北側から東側には低地部が、西側から南側にかけては、台地部が位置している。東京低地と呼称される低地部には、現在、荒川・隅田川・新河岸川の河川が北西から南西に流れている。これらの河川は古代より幾度となくその流路を変えていたと思われ、それに伴い自然堤防を発達させてきた。現在は比較的平坦な地形で分かりづらいが、この自然堤防上に遺跡が営まれている。

一方台地部は、武蔵野台地の北東端部に位置している。周辺は本郷台と呼ばれる支台が展開する。本郷台は東側を東京低地に、西側を谷田川により区切られている。この本郷台上には縄文時代から平安時代にかけての遺跡が多数存在している。石神井川以南に限ってみても西ヶ原遺跡群の他に、中里峠遺跡、田端西台通遺跡、田端不動坂遺跡、田端町遺跡がそれぞれ間隙なく存在している。また西ヶ原遺跡群とは、飛鳥山遺跡、七社神社裏遺跡、七社神社前遺跡、御殿前遺跡、西ヶ原貝塚などを総称した呼称であるが、現状では先に挙げた遺跡とも密接にかかわり、分かちがたいものであるのが実態であろう。以下西ヶ原遺跡群を中心にその概要を述べる。

旧石器時代では御殿前遺跡でナイフ形石器が出土している。

縄文時代では、前期前葉以降集落が営まれる。それ以前では、飛鳥山遺跡・御殿前遺跡で撲糸文土器が、御殿前遺跡で条痕文土器が出土している。前期では飛鳥山遺跡・御殿前遺跡で関山式期から集落が見つかっている。黒浜式期では御殿前遺跡において前代から継続して集落が営まれる。この他に、七社神社前遺跡・田端西台通遺跡・田端不動坂遺跡でも住居跡が見つかっている。七社神社前遺跡はその後の諸磯式期以降も集落が継続して営まれる。

前期末葉から中期初頭では遺跡が希薄になる。中期中葉では七社神社裏遺跡で勝坂式期の、中期後半で



第1図 北区の地形と遺跡及び調査地点位置図

①西ヶ原道路群

地点名	所在地	報告書	発行年	調文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
上中里 1-42-8 地点	上中里 1-42-8	区内道路発掘調査報告	平成 17 年	—	—	—	中・近世地下式墓、溝、 井戸	
上中里 1-45 地点	上中里 1-45	北区埋蔵文化財調査年報	平成 26 年	土坑	—	—	近世窓穴状遺構	
上中里 1-35 地点	上中里 1-35	北区埋蔵文化財調査年報	平成 30 年	—	—	往古跡		

②御殿前道路

地点名	所在地	報告書	発行年	調文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
第1地点	西ヶ原 2-1	御殿前道路 I	昭和 63 年	往古跡（前～後期） 往古跡、方形周溝 墓	—	—	正倉大溝、獨立柱 建物跡、円形有段 道網、往古跡	都府、中世溝 農業技術研究所跡
第2地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前道路 II	平成元年	往古跡（早期後半 ～前期初期） 往古跡	—	—	正倉大溝、獨立柱 建物跡、円形有段 道網、往古跡	大藏省田畠跡荒野川工場
第3地点	西ヶ原 1-30	御殿前道路 III	平成 4 年	—	—	—	中世地下式墓	西ヶ原 1 丁目 30 番地
第4地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前道路 IV	平成 6 年	—	往古跡	正倉大溝、獨立柱 建物跡、大型土坑	中世溝、道路	大藏省田畠跡荒野川工場
第7地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前道路 V	平成 9 年	—	往古跡	孤立柱建物跡、溝	中世溝、道路	
第16地点	西ヶ原 1-29-7	—	—	—	—	—	中世溝等	
第17地点	上中里 1-46-12	—	—	往古跡（中期） 方形周溝、溝	—	—	東京都遺跡調査・発表会 20 回報	
第18地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前道路 VI	平成 12 年	土坑	往古跡、土坑	孤立柱建物跡、溝、 大型土坑	近世溝、近世道路、近世建物	
第23地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前道路 VII	平成 15 年	土坑（中期） 往古跡	—	正倉大溝	—	
第25地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前道路 VIII	平成 15 年	ビット群	往古跡、孤立柱建 物跡	正倉大溝、往古跡	中世溝、近世樹列、溝、土坑	
第30地点	西ヶ原 2-3-15	東京都北区西ヶ原道路群	平成 22 年	往古跡、土坑	往古跡、方形周溝 墓	正倉大溝、獨立柱 建物跡、往古跡	—	
第34地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前道路	平成 25 年	—	往古跡	正倉大溝、獨立柱 建物跡	中世溝、近世溝	
第35地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前道路	平成 25 年	—	往古跡	溝	—	
第36地点	西ヶ原 1-31	御殿前道路	平成 24 年	往古跡（前期） 往古跡	—	孤立柱建物跡、溝	中世墓塚、地下式坑、溝跡	
第37地点	西ヶ原 1-28-2	北区埋蔵文化財調査年報	平成 25 年	—	往古跡	往古跡	—	
第39地点	上中里 1-46-4	北区埋蔵文化財調査年報	平成 26 年	往古跡（中期） 方形单軸	往古跡、方形周溝 墓	孤立柱建物跡、獨立 柱建物跡	方形周溝墓主体加鉄網 都府県回報	
第41地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前道路	平成 28 年	往古跡（前～中期） 土坑	往古跡、方形周溝 墓	孤立柱建物跡、獨立 柱建物跡、大型土坑	—	

③西ヶ原日塙

地点名	所在地	報告書	発行年	調文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
第2地点	西ヶ原 3-1-9	西ヶ原日塙Ⅱ東谷戸遺跡	平成 6 年	往古跡（後期）、 貝塚	—	—	中世溝	(仮) 小泉ビル

表1 西ヶ原遺跡群調査地点一覧表

は御殿前遺跡で集落が営まれる。

西ヶ原貝塚は中期後半以降集落が形成され、後期を通じ継続する集落であり、馬蹄形の貝塚が形成される。また、近年の調査からは晩期中葉の安行Ⅲ d 式が出土しており、晩期前葉以降も人々の痕跡が確認できる。

弥生時代では、飛鳥山遺跡で宮ノ台式期の環濠集落が形成される。弥生時代後期後半になると西ヶ原遺跡群の全域にわたって集落が形成される。

弥生時代後期末から古墳時代前期になると、今まで西ヶ原遺跡群全体に認められた集落は縮小し、御殿前遺跡に収斂される。後期になると、飛鳥山遺跡で 5 基の古墳からなる群集墳が認められる。

古代では武藏国豊島郡衙跡に比定される御殿前遺跡・七社神社前遺跡がある。郡衙の周辺では、同時期の住居跡が見つかっており、7 世紀以降継続して認められる。今回の調査で検出された住居跡も郡衙周辺に認められるこうした住居跡の一つである。調査地点の標高は 22 m 前後である。

3. 調査の経過と概要

調査期間は平成 30 年 1 月 25 日～2 月 5 日、調査面積は 22.6 m² である。1 月 25 日に発掘機材と重機を搬入し、調査区北西側から表土掘削を開始した。確認面はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）上面の地表下約 0.6 ~ 0.7 m である。遺構確認終了後、直ちに遺構精査を開始し、適宜図面作成・写真撮影を行い、2 月 1 日全景写真を撮影し、2 月 5 日重機により埋め戻し作業及び機材の撤収をし、調査を終了した。

遺構は竪穴住居跡 1 軒で、北側に竈を持つ 7 世紀後半のものである。遺物は竈付近の床面上から土師器の壺・甕・瓶が出土した。

4. 遺構と遺物

【SI01】

遺構（第 2・3 図 図版 1）

平面形：隅丸方形を呈するものと思われるが、調査区西端に位置するため全景を明らかにすることはできなかった。規模：長軸 4.60 m、短軸 4.34 m で、住居跡の全体の 3 / 4 程を調査したものと思われる。

主軸方位：N - 47° - W。覆土：中層（3 層）に多量にロームブロックを含む層があることから、自然堆積の後、人為的に埋め戻されたものと思われる。壁及び床面：壁は北東の一部を除き、直線的に立ち上がる。最も残りの良い西隅付近で 0.58 m である。床は西隅付近を除き平坦である。掘りこんだロームを踏みしめ床をつくっているが、北及び東隅部分は黒褐色土とロームブロックによる貼床が一部で見られる。竈前面及び柱穴で囲まれた内側を中心で硬化している。南西側では、柱穴を結んだラインより西側及び南側に硬化面が認められた。このことから、住居の入り口部は通常想定される竈正面の南壁側以外に西壁側にあった可能性もある。壁溝：壁に沿って巡る。幅は 0.15~0.26m 程で、深さは 0.22m 程である。柱穴：調査区内では 3 本検出された。南西側の 1 本は調査区外に位置するものと思われ、4 本主柱の住居跡である。検出された柱穴はいずれも柱痕跡は認められず、柱は抜き取られていた。P 1 が 0.67 × 0.39 m、深さ 0.75 m、P 2 が 0.53 × 0.52 m、深さ 0.77 m、P 3 が 0.71 × 0.52 m、深さ 0.76 m である。いずれの柱穴も住居の中心部側がテラス状になる。これは柱を抜き取った際の痕跡であろう。おそらく柱穴の堀り方の大きさは概ね 0.40 ~ 0.50 m 程であると思われる。柱の中心を結んだラインは方形で、住居の平面形とほぼ相似形をなす。竈：北壁中央付近に付設されている。規模は 1.19 × 1.11 m で、住居北西壁に対してほぼ直角に築かれていた。黄褐色粘土で構築されていたが、残りは良好ではなく全体に崩れており、竈前面に崩れた粘土が堆積していた。そのため竈は左右の袖の一部が遺存しているに過ぎなかった。

右袖に比べ左袖の方がやや残りが良く、内側が被熱により部分的に赤化していた。燃焼部は 0.79×0.51 m 程の楕円形で、住居跡の床面を僅かに掘りこみ築かれていたが、赤化した部分は認められず、火甌を明確にはできなかった。煙道部の立ち上がりは、住居の壁の立ち上がりに比べ緩やかで、壁より 0.45 m 外側に延びる。**貯藏穴**: 窟の西側に位置し周堤を持つ。平面形は 0.70×0.69 m の不整円形で、深さは 0.22 m である。底面は平坦で西側は緩やかに立ち上がり、周堤を持つ東側がやや急角度で立ち上がっている。

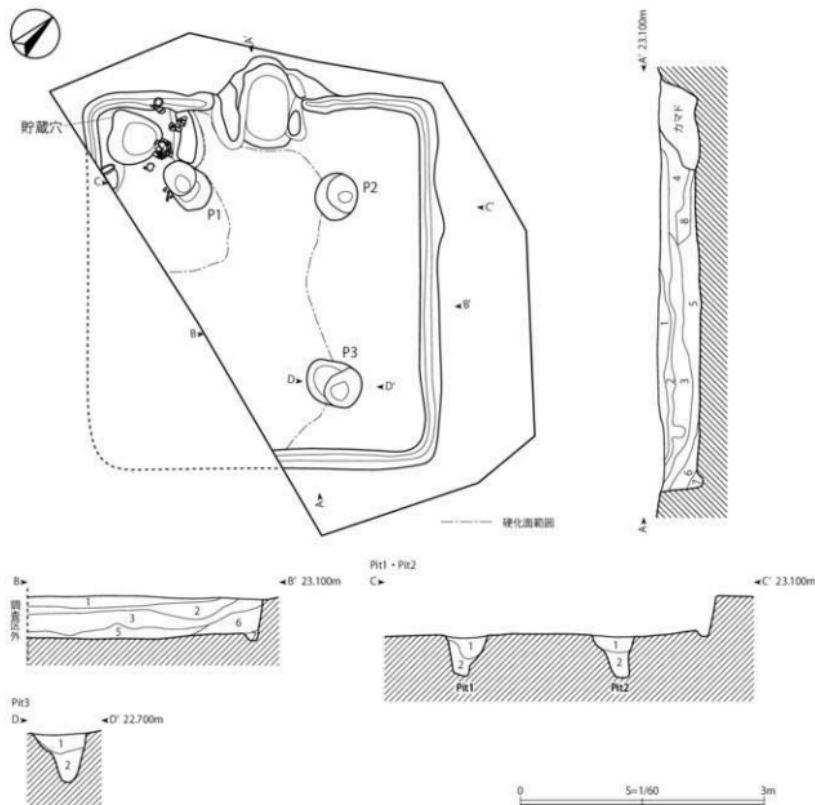
遺物（第4図 図版2 表2）

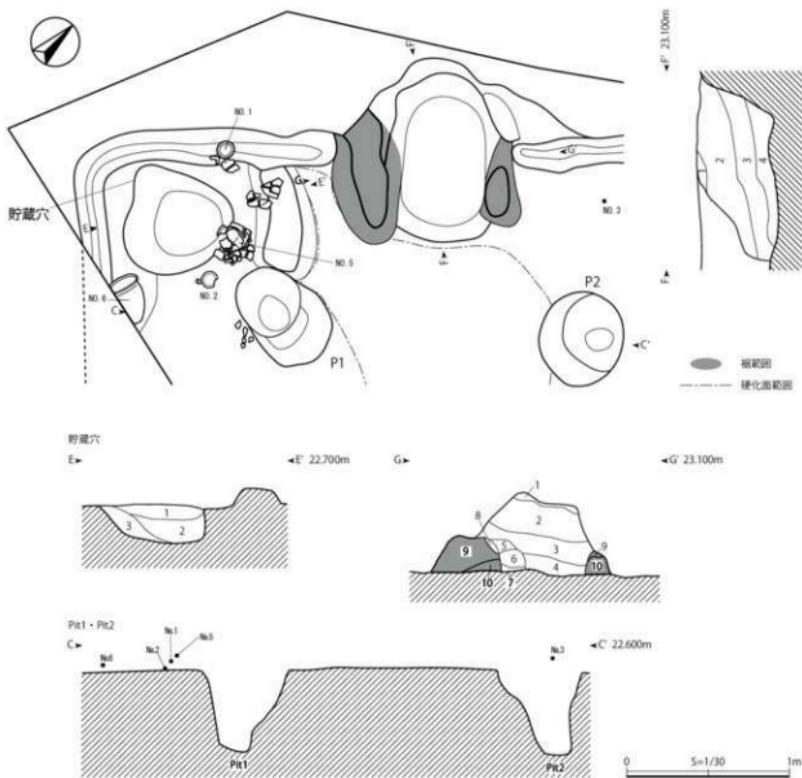
出土状況: 遺物は窓西側の床面付近で多数出土している。一方、覆土中層から上層にかけては、小破片あるいは時期の異なる流れ込みと思われるものが出土したのみであった。覆土中で図化したものは4と縄文土器の7・8であり、その他はほぼ床面上から出土している。

特に窓西側の貯藏穴周辺で見つかっている。坏は完形あるいはそれに準ずるもののが土圧により、床面上でつぶれた状態で出土している。また、1は壁溝上から出土していることから、住居廃絶後、投棄あるいは棚などから転落した可能性がある。5は床面上から土圧により押しつぶされた状態で出土し、土器の中に覆土を介在しない。一方6は床面上からの出土であるが、完形のため内部に焼土と灰を多量に含む覆土が認められる。この6の内部に認められた覆土は、住居内の覆土には認められないことから、理由は不明確であるが、人為的に充填された可能性が高い。土器: 1～4は丸底の坏である。底部はヘラケズリされ、口縁部内外面は強く横ナデされる。1は口唇部が磨滅しており、使い込んだ様子が認められる。また、口縁部直下に帯状の煤の付着が認められることから、灯明皿として使用されたものと思われる。底部外面には直線状の擦痕が多数みられることから、鉄器を研いだものと思われる。4は比企型坏で、内面及び口縁部外面が赤彩される。口縁部内面直下に僅かに段差をもつ。5は丸底を呈する小型の甌である。胴部を上から下にヘラケズリ後、底部を横ケズリしている。その後、部分的に胴部にミガキを有する。6は甌で、胴部は継位にヘラケズリを施す。外面に黒斑が認められる。7・8は覆土中から出土したものである。7は黒浜式、8は加曾利EⅢ式である。いづれも流れ込みである。

1～6が本住居跡に伴う遺物で、7世紀後半のものと思われる。

時期 7世紀後半。





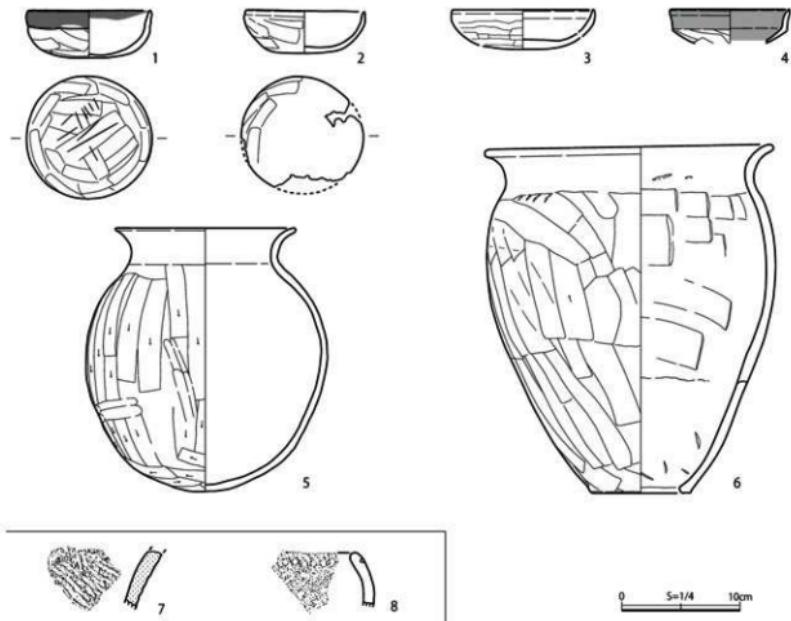
カマド

土色	縋り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (7.SYR3/1)	なし	なし	黄褐色粘土ブロック ($\varphi 50$ mm程) を多量に、焼土粒子を少量含む。カマド天井部の崩落土。
2 SI01A-A' 4層起源	なし	なし	焼土ブロック ($\varphi 20$ ~ 30 mm) ・粘土ブロック ($\varphi 10$ ~ 30 mm) を少量含む。
3 SI01A-A' 8層起源	なし	なし	焼土・黄褐色粘土ブロック ($\varphi 20$ ~ 50 mm) を少量含む。天井崩落土を含む。
4 SI01A-A' 4層起源	ややあり	ややあり	焼土・黄褐色粘土ブロック ($\varphi 10$ ~ 20 mm) ・焼土粒子を多量に含む。
5 黄褐色土 (7.SYR3/4)	ややあり	なし	焼土ブロック ($\varphi 5$ ~ 20 mm) ・焼土粒子を多量に含む。
6 にぶい橙褐色土 (7.SYR6/4)	あり	なし	黄褐色土 ($\varphi 30$ ~ 50 mm) 主体。焼土粒子を少量含む。
7 黑褐色土 (7.SYR3/1)	なし	ややあり	ローム・焼土粒子を少量含む。
8 にぶい赤褐色土 (2.SYR5/4)	あり	なし	焼土主張。宿が加熱で赤化したもの。
9 混黄褐色土 (10YR8/3)	ややあり	ややあり	黄褐色粘土主張。カマドの根部。
10 褐色土 (10YR4/4)	ややあり	ややあり	黄褐色粘土ブロック ($\varphi 10$ ~ 20 mm) を少量含む。カマドの裾部。

SI01 貯蔵

土色	縋り	粘性	混入物
1 黒褐色土 (7.SYR3/2)	あり	ややあり	ロームブロック ($\varphi 10$ ~ 20 m) を含む。
2 褐色土 (10YR4/6)	ややあり	ややあり	ロームブロック ($\varphi 20$ ~ 30 mm) ・ローム粒子を多量に含む。
3 にぶい黄褐色土 (10YR7/4)	強い	なし	ロームを主体とする層。

第3図 上中里 1-35 地点 SI01 カマド・貯蔵穴平・断面図・遺物出土図



第4図 上中里 1-35地点 出土遺物実測図

種別 固有番号	種別 固有番号	出土位置	法面 (cm)	遺存状態	色調	胎土	焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
4-1 2-1	土師器 环	SI01	口径：10.3 器高：10.3 底径：4.0	ほぼ完形	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	白色粒子・黑色 粒子・赤色粒子	良好	口縁部は直立し、底部は丸底を呈する。口縁部と底部 の境に沈線状の段差が認められる。底部外周は中央部 をハメケズり後、周辺部をへラケズする。内面はナ デ。口縁部内外強い横ナデ。口沿部厚減する。口縁 部内面に黒化現象。底部外周面剥離あり。	
4-2 2-2	土師器 环	SI01	口径：10.0 器高：10.2 底径：3.6	口縁部 2/3 底部 遺存	明赤褐色 (SYR5/6)	白色粒子・黑色 粒子・赤色粒子・ 白色粘土質	良好	丸底の底部から内側にながら立ち上がり、口縁部はや や内側に曲する。口縁部と底部の間には段が認められ る。底部外周は中央部へラケズり後、周辺部へラケズ り。その後ナデ。口縁部内外強い横ナデ。内面ナデ。	
4-3 2-3	土師器 环	SI01	口径：12.0 器高：3.4 底径：(12.2)	口縁部 1/4 底部 遺存	褐色 (SYR6/6)	白色粒子・黑色 粒子・赤色粒子・ 雲母	良好	平底の近い底から内側ながら立ち上がり、口縁部に平 底部から内側に曲がる。底部外周にナデ。底部外周 に内面ナデ。口縁部内外強い横ナデ。	
4-4 2-4	土師器 环	SI01	口径：10.0 器高：2.9	口縁部～胴部 1/4	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	白色粒子・黑色 粒子・纏	良好	底部は丸底を呈し、口縁部は側面から外反する。内面口 縁部直下凹陥状の段差が見られる。底部外周へラケズ り、内面ナデ。口縁部内外強い横ナデ。内面及び口 縁部外周剥離。比較的厚。	
4-5 2-5	土師器 環	SI01	口径：15.2 器高：22.3	口縁部～胴部 1/4 底部 遺存	にぶい褐色 (10YR6/4) 黒褐色 (10YR3/2)	白色粒子・黑色 粒子・纏	良好	底部は丸底を呈し、胴部中位に最大径を持つ。頭部は 直立して縁部が強く外反する。胴部外周から下にへ ラケズり後、底部だけ窪ケズり。その後一面ミガキ。 内面ナデ。口縁部内外強い横ナデ。胴部外周全体 的に黒化。	
4-6 2-6	土師器 環	SI01	口径：24.4 器高：29.4 底径：8.4	完形	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	白色粒子・黑色 粒子・赤色粒子・ 纏	良好	底部から内側ながら立ち上がり、胴部上半に最大径 を持つ。口縁部は外反する。胴部外周剥離及び窪ケズ り、内面強ナデ。口縁部内外強い横ナデ。	
4-7 2-7	陶文土器 鉢	SI01		破片	内外面 にぶい褐色 (7.5YR6/4) 断面 黒褐色 (7.5YR4/1)	白色粒子・黑色 粒子・赤色粒子・ 纏	良好	無断口 横拉致文。纏を含む。黒拭。	
4-8 2-8	陶文土器 深鉢	SI01		破片	にぶい褐色 (10YR6/4)	白色粒子・黑色 粒子・纏	良好	RLを縱横に施した後、口縁部付近で棒状工具で円 形削痕を施す。加削利E3式。	

表2 上中里 1-35 地点 遺物観察表



SI01 全景 (北東から)



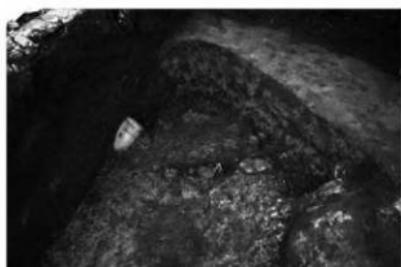
カマド崩落状況 (北東から)



カマド完掘状況 (南東から)



貯蔵穴完掘状況 (南東から)



遺物出土状況① (北東から)



遺物出土状況② (南東から)



遺物出土状況③ (北西から)



遺物出土状況④ (北東から)

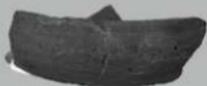
図版 1 上中里 1-35 地点



1



2



3



4



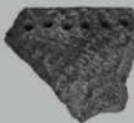
5



6



7



8

S101

图版2 上中里1-35地点 出土遗物

報告書抄録

ふりがな	きたくまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう						
書名	北区埋蔵文化財調査年報						
副書名	一平成 29 年度-						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	宅間清公 遠竹陽一郎 牛山英昭						
編集機関	東京都北区教育委員会事務局 飛鳥山博物館						
所在地	〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 TEL 03(3916)1133						
発行年月日	平成 31 (2019) 年 2 月 15 日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間 (発掘調査)	調査 面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	○ ○ ○ ○			
にしへらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうとときたこかみなかざと 東京都北区上中里1-33		27				
にしへらいせきぐん 田端西台通遺跡	とうきょうとときたこたばわら 東京都北区田端6-3-20		41				
のめのきいせき 梅ノ木遺跡	とうきょうとときたこにのむか 東京都北区西が丘1-28-7		17				
なかよしはけうらいせき 中里峠上遺跡	とうきょうとときたこなかよし 東京都北区中里3-16-24		40				
しみずだいせき 清水坂遺跡	とうきょうとときたこみずさか 東京都北区中十条4-6		18				
なかよしはけうらいせき 中里峠上遺跡	とうきょうとときたこなかよし 東京都北区上中里1-11-17		40				
のくだいせき 袋低地遺跡	とうきょうとときたこくわいせき 東京都北区赤羽北2-22		4				
しもひらうらいせき 下十条遺跡	とうきょうとときたこくわいせき 東京都北区滝野川4-27-1		39				
なかよしはけうらいせき 中里峠上遺跡	とうきょうとときたこなかよし 東京都北区中里3-16-24		40				
にしへらるかづか 西ヶ原貝塚	とうきょうとときたこはいはな 東京都北区西ヶ原3-6-20		27				
にしへらるかづか 田端不動坂遺跡	とうきょうとときたこたばた 東京都北区田端1-24		32				
にじうじやうかづか 十条台遺跡群	とうきょうとときたこかじゅじょう 東京都北区中十条1-3-19 (南橋遺跡)	13117	19				卷頭一覧表参照
にじうじやうかづか 十条台遺跡群 (南橋遺跡)	とうきょうとときたこかじゅじょう 東京都北区中十条1-3-19 (南橋遺跡)		19				
なかよしはけうらいせき 中里峠上遺跡	とうきょうとときたこなかよし 東京都北区中里3-16-24		40				
なかよしはけうらいせき 中里峠上遺跡	とうきょうとときたこなかよし 東京都北区中里3-16-24		40				
にしへらるかづか 西ヶ原遺跡群	とうきょうとときたこなかよし 東京都北区上中里1-35		27				
にしへらるかづか 田端不動坂遺跡	とうきょうとときたこたばた 東京都北区田端1-24		32				
にじうじやうかづか 十条台遺跡群	とうきょうとときたこかじゅじょう 東京都北区中十条1-2-6-9		19				
にしへらるかづか 西ヶ原遺跡群	とうきょうとときたこはいはな 東京都北区西ヶ原3-7-15		27				
なかよしはけうらいせき 中里峠上遺跡	とうきょうとときたこなかよし 東京都北区上中里3-11-13		40				

北区埋蔵文化財調査年報
—平成 29 年度—

平成 31 年 2 月 1 日 印刷
平成 31 年 2 月 15 日 発行

刊行物登録番号
30 - 3 - 045

編集 北区飛鳥山博物館
〒 114-0002 東京都北区王子 1-1-3
電話 03-3916-1133

発行 東京都北区教育委員会
〒 114-8546 東京都北区滝野川 2-52-10

印刷 文明堂印刷株式会社
〒 114-0032 東京都北区中十条 2-15-12
電話 03-3908-3466